

土屋敷遺跡 1次調査

如水コミュニティーセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020
中津市教育委員会

土屋敷遺跡 1次調査

如水コミュニティーセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

中津市教育委員会

序

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝耶馬溪など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。近年は、自動車関連会社などの進出・稼働を受け工業の町としての新たな側面を見せはじめています。

令和元年度の試掘・確認調査件数は前年度よりやや減少し、本発掘調査は公共工事、民間開発に伴うものを中心に実施しております。今後、東九州道などへのアクセス道路、インター周辺の開発等が予想されるため、埋蔵文化財を取り巻く状況の厳しさは続くことが予想されます。しかし、文化財は現代に生きる我々が責任をもって未来へ伝えていかななくてはなりません。

本書はこうした開発の中で、中津市大字合馬491番1外の如水コミュニティーセンター建設に先立ち、中津市教育委員会が実施した土屋敷遺跡1次調査の発掘調査報告書です。調査により中世の堀跡や土器などが発見され、合馬地域及び中津市の歴史を考える上で貴重な調査となりました。

本書が学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護やその理解への一助となりましたら幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力賜りました関係各位、及び調査に従事して下さった方々に対し、深甚から感謝申し上げます。

令和2年3月31日

中津市教育委員会
教育長 栗田 英代

例 言

1. 本書は中津市教育委員会が、平成25・26年度に行った如水コミュニティーセンター建設に伴う土屋敷遺跡1次調査の報告書である。
2. 確認調査は荻幸二が、本調査は浦井直幸が担当した。
3. 現場作業は、臨時職員の故石塔美代子、今木功一、江藤由美、太神明美、太田博泰、奥田誠、奥中廣雪、大本賢一、小野照行、小野礼子、甲斐嘉夫、加来田泰明、加来晴美、川口政代、小林裕明、近藤朝子、末廣洋子、角美枝子、瀬口礼子、高榎俊幸、高野庸人、武内義人、田島律子、立澤彩、東修治、久恒義夫、松村たか子、三原耕二、宮津しのぶ、若木和美の協力を得た。
4. 遺構の実測は立澤、加来、宮津、浦井が行い、遺構・遺物の撮影は浦井が行った。遺構図の浄書・遺物実測等は、臨時職員の安部方恵、岩男純子、衛藤京子、久原彩、吉上かおりの協力を得た。
5. 現場で用いた座標は世界測地系による。
6. 遺構の表記は次のとおりである。SD＝溝状遺構 SK＝溝状遺構 SB＝掘立柱建物 ST＝塚状遺構 SX＝性格不明遺構
7. 図面等記録類は中津市歴史博物館に、出土遺物は旧東谷小学校体育館に保管している。
8. 出土土器については、山本哲也氏（大分県立埋蔵文化財センター）の教示を得た。
9. 発掘調査中は集会所利用について地元合馬自治区のご理解、ご協力を賜った。
10. 本書の執筆・編集は浦井が行った。

目次

序 例言

第1章 調査の経過	1	第3章 調査の方法と成果	5
第1節 調査に至る経緯と経過	1	第1節 調査の方法	5
第2節 調査体制	2	第2節 基本層序	6
第2章 遺跡の位置と環境	3	第3節 遺構と遺物	6
第1節 地理的環境	3	第4章 総括	25
第2節 歴史的環境	3	写真図版 報告書名抄録	

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図	1	第14図 3区遺構配置図	16
第2図 中津市内主要遺跡分布図	4	第15図 3区SD1平面・断面図、出土遺物	17
第3図 全区遺構配置図	5	第16図 3区SD2平面図、土層図、出土遺物	18
第4図 基本層序図、出土遺物	6	第17図 3区SD2出土遺物①	19
第5図 1区遺構配置図	7	第18図 3区SD2出土遺物②	20
第6図 1区SD2・3平面・断面図、土層図、出土遺物	8	第19図 3区SX1平面図、土層図、出土遺物	21
第7図 1区SD1平面図、土層図、石列平面・立面・土層図	9	第20図 3区SB1平面・断面図、出土遺物	22
第8図 1区SD1土層図	10	第21図 4区ST1等高線図、土層図、ST1内遺物出土状況、出土遺物	23
第9図 1区SD1出土遺物	11	第22図 4区ST1出土遺物	24
第10図 1区SD4平面・断面図、出土遺物	12	第23図 調査区内出土遺物	25
第11図 1区SD5・6平面図、土層図、出土遺物	13	第24図 調査地周辺小字図	26
第12図 1区SD7平面・断面・土層図、出土遺物	14	第25図 合馬村絵図	27
第13図 2区遺構配置図、出土遺物	15	第26図 合馬村絵図と調査区	27

表 目 次

遺物観察表1	29	遺物観察表3	31
遺物観察表2	30		

写 真 図 版 目 次

写真1 庄屋敷門	28	写真3 一里松記念碑	28
写真2 庄屋敷お茶屋	28		
写真図版1 調査区遠景 1区調査区全景			
写真図版2 1区SD1検出状況 1区SD1中央部完掘状況 1区SD1石列状況 1区SD5・6検出状況 1区SD1南端完掘状況 1区SD1石列状況			
写真図版3 1区SD1土層③ 1区SD1土層④ 1区SD2・3完掘状況 1区SD5完掘状況 1区SD1とSD5切り合い状況 1区SD5土層			
写真図版4 2区SK1完掘状況 3区遺構検出状況 3区調査区全景			
写真図版5 3区SD2掘り返し部完掘状況 3区SD2完掘状況 3区SD2遺物出土状況 3区SB1完掘状況 4区ST1近景 4区ST内瓦列 作業風景 現地説明会風景			
写真図版6 出土遺物			
写真図版7 出土遺物			

第1章 調査の経過

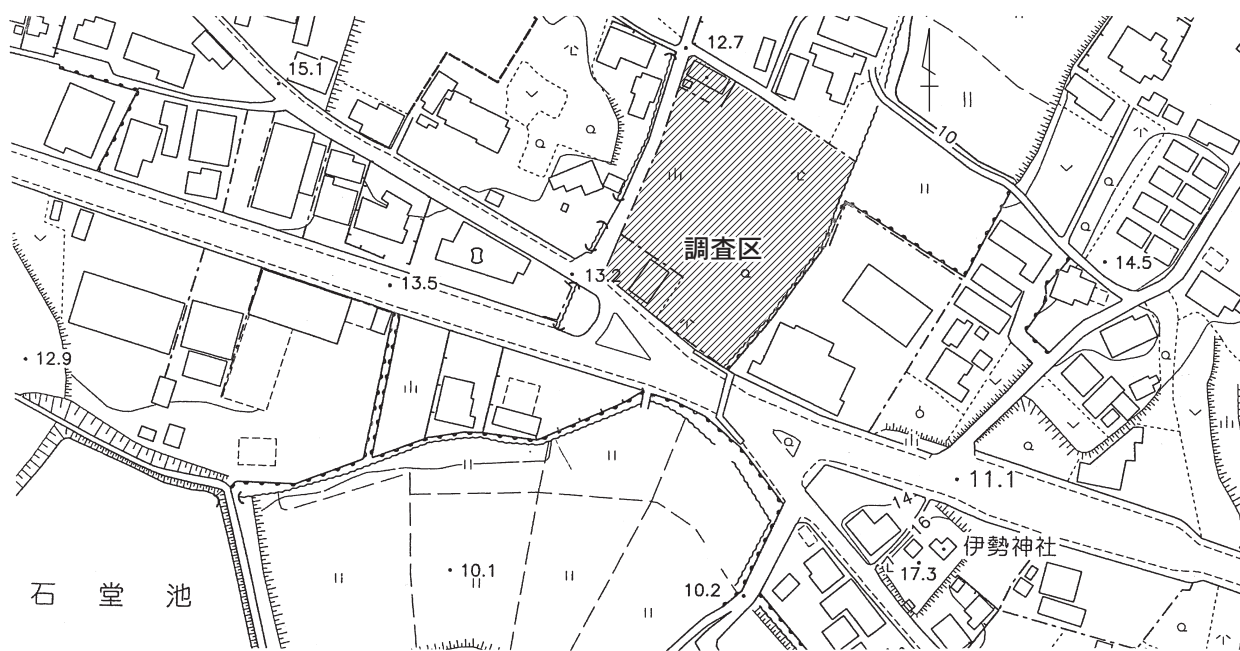
第1節 調査に至る経緯と経過

平成24年10月、中津市教育委員会生涯学習課から中津市大字合馬479番1外における如水コミュニティーセンター建設について、埋蔵文化財発掘調査の有無について協議依頼があった。この事業は如水校区民のための便益施設を新設するもので、一部隣接市県道の拡張も含まれていた。協議の結果、当該箇所は周知遺跡内ではないものの、小字は「土屋敷」であり、中世城館関連遺構等何らかの遺跡が発見される可能性が高いと判断され、試掘調査を実施することが決まった。

現地は竹が繁茂していたため、平成24年11月21日、まず竹林のない西側に対して試掘調査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。2回目の試掘調査は調査区東側の竹の除伐終了後、平成25年9月9日に実施した。その結果、溝状遺構や柱穴、土師器片が確認された。遺構が確認された位置は、開発工事に掛かる範囲であったため、担当課と協議を行い、造成・建物建設範囲・市県道拡張範囲のうち、工事により遺構が破壊される部分について本調査を実施することが決まった。9月24日、県文化課へ調査地を小字から「土屋敷遺跡」とし、遺跡範囲を小字範囲とすることを報告した。9月27日、担当課より文化財保護法94条が通知され、10月2日、本調査に着手した。11月5日、担当課より建物配置が通知文書のものから変更される旨連絡があった。現在の調査区内で収まらないことから、調査区を南側へ拡張することにした。11月6日、拡張部分の表土剥ぎを行い、溝状遺構、柱穴を多数検出した。このため、調査終了期間を12月第2週目まで延長することを伝え、12月12日までに本報告の1・2・4区の調査を終了した。調査途中の11月7日、合馬老人クラブ会員15名に遺跡の現地説明を行った。また、12月7日に調査地周辺住民を対象に現地説明会を開催し老若男女約20名の参加を得た。

平成26年3月、日当たりの問題から建物を本調査を行っていない調査区北側へ移すことが決定された。3月28日、文化財保護法94条が提出され、4月10日から本調査に着手した。調査では1区の続きの溝状遺構などを発掘調査し5月22日に調査を終了した。本報告では平成26年度調査区を3区として報告する。

遺物の整理作業は平成26年度と平成31年度に実施した。令和2年3月の本書刊行をもって本事業を完了した。



第1図 調査区位置図 (S=1/2,500)

第2節 調査体制

年度毎の調査体制は以下の通り。

平成25（2013）年度

調査責任者	廣畑 功	(中津市教育委員会教育長)
調査事務	川西 州作	(同 文化財課長)
	高崎 章子	(同 文化財係長)
	田中布由彦	(同 管理係長)
	竹内 奈央	(同 管理係員)
調査担当	浦井 直幸	(同 文化財係員)
	荻 幸二	(同 文化財係嘱託)

平成26（2014）年度

調査責任者	廣畑 功	(中津市教育委員会教育長)
調査事務	後藤 義治	(同 教育次長)
	今津 時昭	(同 文化財課長)
	高崎 章子	(同 主任研究員兼文化財係長)
	宇野 眞理	(同 管理係長)
	河野さくら	(同 管理係員)
	竹内 奈央	(同 管理係員)
調査担当	浦井 直幸	(同 文化財係員)

平成31（2019）年度

調査主体	中津市教育委員会	
調査責任者	粟田 英代	(中津市教育委員会教育長)
調査事務	大下 洋志	(同 教育次長)
	高尾 良香	(同 社会教育課長)
	高崎 章子	(同 文化財室長兼中津市歴史博物館館長)
	花崎 徹	(同 文化財室主幹兼中津市歴史博物館副館長)
	河野さくら	(同 管理・文化振興係主幹)
	村上 豊成	(同 管理・文化振興係主幹)
	速水 誠	(同 管理・文化振興係員)
	渡邊奈津子	(同 管理・文化振興係員)
調査担当	浦井 直幸	(同 文化財係員)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万4千人、面積491km²を誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝耶馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

土屋敷遺跡は洪積台地に所在し、調査地東側は谷地形があり谷の奥は石堂池に至る。

第2節 歴史的環境

旧石器時代 市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡（35）や法垣遺跡（19）で発見されている。

縄文時代 上畑成遺跡（43）で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡（18）で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡（21）、女体像と見られる土偶が出土した高畑遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が検出され注目されている。

弥生時代 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡（13）で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壇墓・住居跡・溝が福島遺跡（25）で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡（28）で検出された。

古墳時代・古代 亀山（亀塚）古墳（58）が挙げられるが、調査せず破壊されたため詳細は不明であるが、近年行った発掘調査により埴輪片が出土している。その他の墳墓の多くは下毛原台地の南西に造営される。5世紀中ごろには山国川に面する勘助野地遺跡（12）で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓群（11）が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群（29）、城山古墳群（34）、城山横穴墓群（33）などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡（7）で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡（49）や定留遺跡（51）でまとまって発見されている。古代には7世紀末に白鳳系の相原廃寺（6）が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制（4）が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衛正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡（20）が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、草場窯跡（37）、踊ヶ迫窯跡（38）、洞ノ上窯跡などがある。集落遺跡としては10世紀代の緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡がある。

中世 長久寺の田丸城跡（24）など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城（1）が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世 関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632（寛永9）年に完成を見る（2）。1717（享保2）年に奥平氏が入部し、1871（明治4）年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



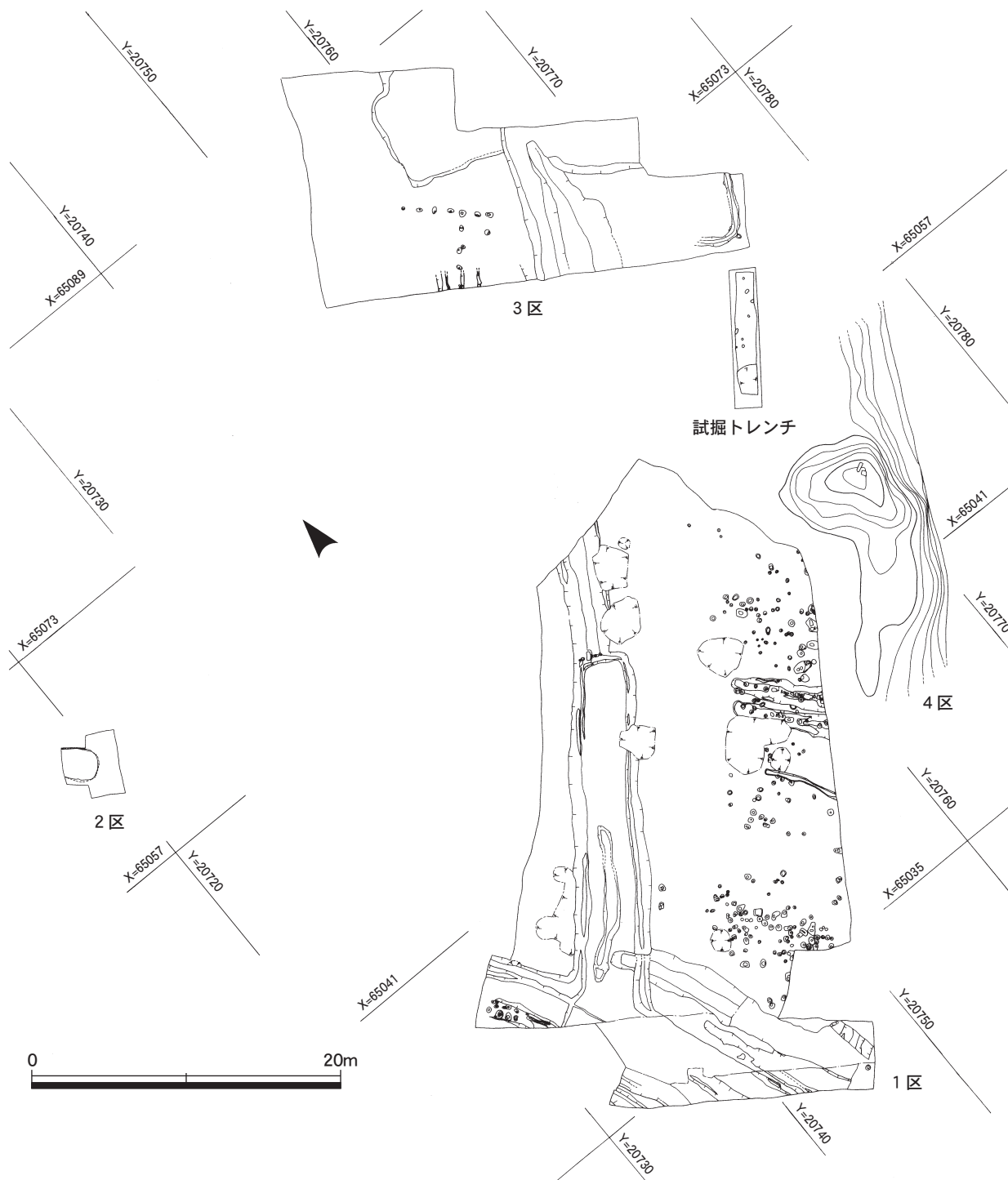
- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 中津城 | 13. 上ノ原平原遺跡 | 25. 福島遺跡 | 37. 草場窯跡 | 49. 和間貝塚 |
| 2. 中津城下町遺跡 | 14. 大池南遺跡 | 26. 福島地下式横穴 | 38. 踊ヶ迫窯跡 | 50. 定留鬼塚遺跡 |
| 3. 豊田小学校校庭遺跡 | 15. 佐知久保畑遺跡 | 27. 前田遺跡 | 39. ホヤ池窯跡 | 51. 是能遺跡 |
| 4. 沖代地区条里跡 | 16. 佐知遺跡 | 28. 森山遺跡 | 40. 大谷窯跡 | 52. 田尻大迫遺跡 |
| 5. 市場遺跡 | 17. 加来居屋敷遺跡 | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依遺跡 | 53. 舞手橋東段上遺跡 |
| 6. 相原廃寺 | 18. 黒水遺跡 | 30. 犬丸川流域遺跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 是則遺跡 |
| 7. 相原山首遺跡 | 19. 法垣遺跡 | 31. 洞ノ上窯跡 | 43. 上畑成遺跡 | 55. 全徳遺跡 |
| 8. 鶴市神社裏山古墳 | 20. 長者屋敷官衙遺跡 | 32. 安平遺跡 | 44. 諸田南遺跡 | 56. ガラヌノ遺跡 |
| 9. 坂手隈城跡 | 21. ボウガキ遺跡 | 33. 城山横穴墓群 | 45. 諸田遺跡 | 57. 合馬遺跡 |
| 10. 幣旗邸古墳群 | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群 | 46. 天貝川遺跡 | 58. 亀山古墳 |
| 11. 上ノ原横穴墓群 | 23. 原遺跡 | 35. 才木遺跡 | 47. 定留遺跡 | 59. 土屋敷遺跡 |
| 12. 勘助野地遺跡 | 24. 田丸城跡 | 36. 城山窯跡群 | 48. 定留貝塚 | 60. 三口遺跡 |

第2図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法 (第3図)

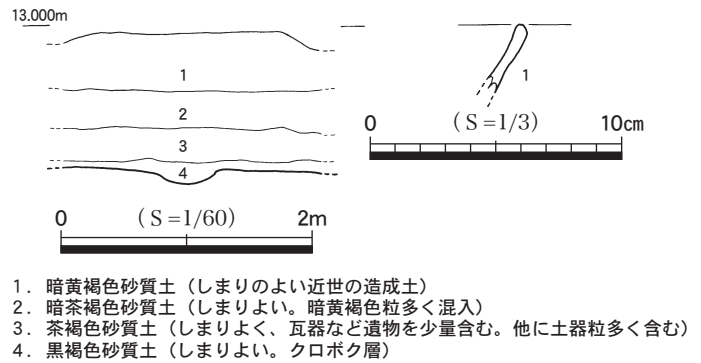
表土の掘削は重機を用いて行った。人力による遺構検出の結果、調査区は所々近代の攪乱を受け遺構が損壊している箇所があることがわかった。また、調査地西側は表土を20cm程下げると地山が検出され、特に1区では東側は柱穴が確認できるのに対し、西側ではほとんど確認できていない。近代に受けた地下げの影響によると思われる、旧地形は調査地の西側は高く、東の谷部に向けて下降する地形であったと想像される。検出した溝状遺構は、所々土層観察用畔を設定し掘り下げを行った。1区南端の建物と県道拡幅にかからない範囲は遺構の検出に留め未掘とした。



第3図 全区遺構配置図 (S=1/400)

第2節 基本層序 (第4図)

基本層序は次のとおりである。1層はしまりのよい暗黄褐色砂質土で近世の層。2層は暗茶褐色砂質土、3層は瓦器片や土器粒などを含むしまりのよい茶褐色砂質土。1は3層から出土した土師器の壙。4層は黒褐色のクロボク層である。それより下位にて茶褐色の地山に至る。



第4図 基本層序図 (S=1/60) 出土遺物 (S=1/3)

第3節 遺構と遺物

遺構と遺物の概要 (第5図)

調査の結果、古墳時代の溝状遺構2条、中世と思われる溝状遺構5条・性格不明遺構1基・土壇1基、近世の塚状遺構1基、近世もしくは近代の掘立柱建物1棟を検出した。なお1区では柱穴状遺構を多く検出している。遺物の総箱数はパンケース4箱であった。中世所産の遺物が最も多く、古墳時代、近世の順に少ない。各遺構は、出土した遺物を基本に遺構の時期を比定している。出土遺物が少量なものや複数時期の遺物が混在している遺構については、時期の明確な遺構の規模、配置、重複関係などを参考に時期比定したものがあ。今後検証され時期が変更になる可能性もある。

1.1区の遺構と遺物

1区は今回の調査区の中で最も広い面積を誇る。遺構密度は比較的高い。本章第1節で述べたように地形は西から東にかけて緩やかに傾斜し、西側部分は近代に削平を受けているものと思われる。溝状遺構を多く検出しており調査区南側では重複がみられる。東側の多数の柱穴群は、削平を免れた遺構である可能性が高く、調査区西や南の溝状遺構も上部が削平されているものと思われる。調査区東の溝状遺構 (SD2・3・4) の西端が同じラインで途切れていることも削平の影響であろう。

古墳時代の遺構と遺物

溝状遺構

SD2 (第6図)

調査区中央東よりで検出した北西-南東方向を指向する溝状遺構である。東端は調査区外となり全形は不明。長さ6.3m+ α 、最大幅1.4m、深さ26cmを測る。底面に直径30cm、深さ30cmの小穴や凹凸がある。この小穴や凹凸の最下層には非常に硬く締まる黒褐色砂質土があり、掘り下げる作業員の手を煩わせた。小穴などはほぼ直線状に並ぶため意図して配置されたと思われる。

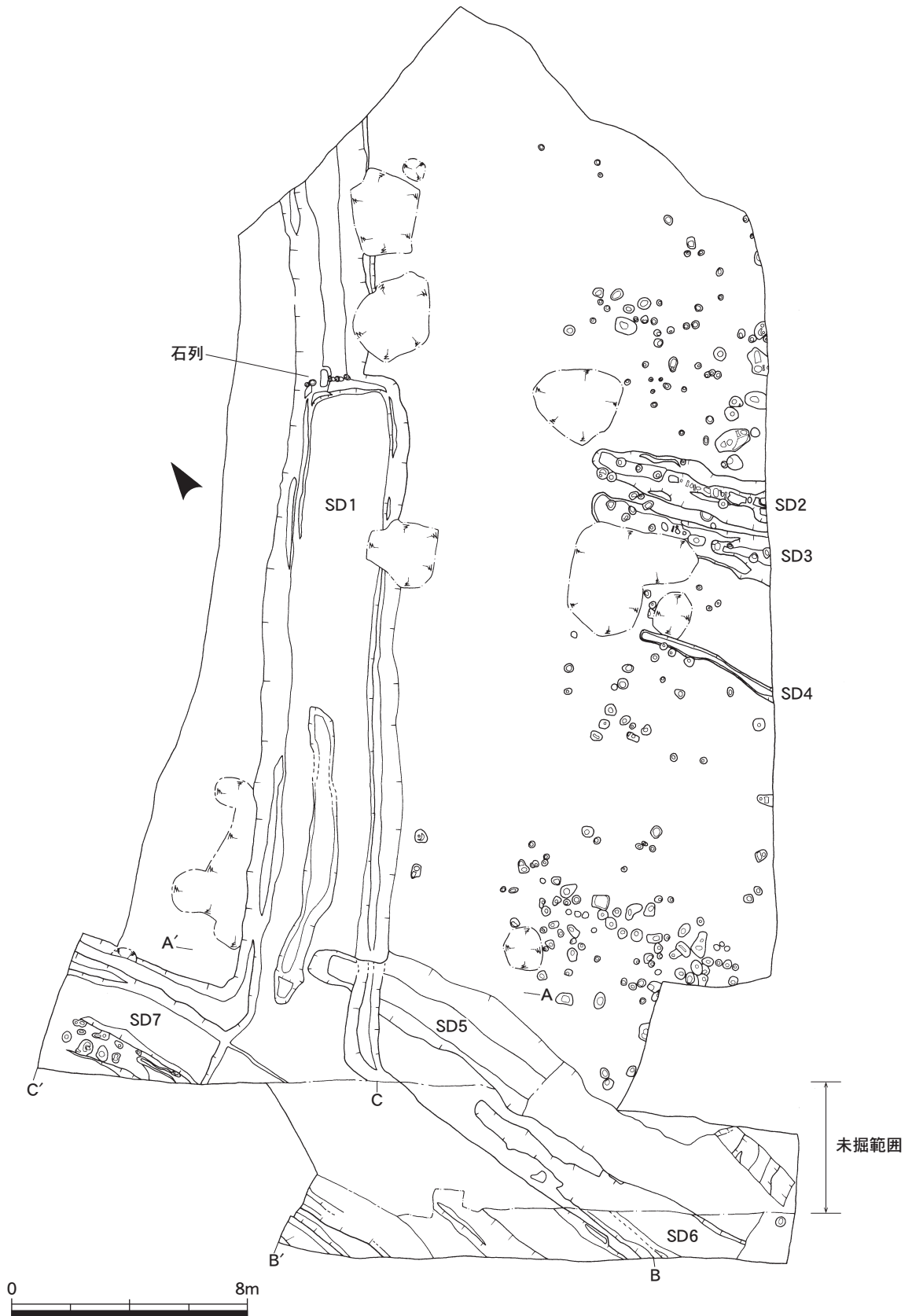
遺物は少量出土した。2は須恵器。甕の口縁部か。3は土師器の甕。4は陶器の破片。流れ込みであろう。

SD3 (第6図)

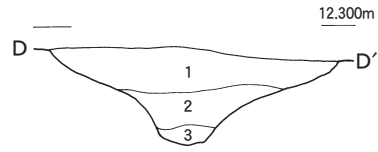
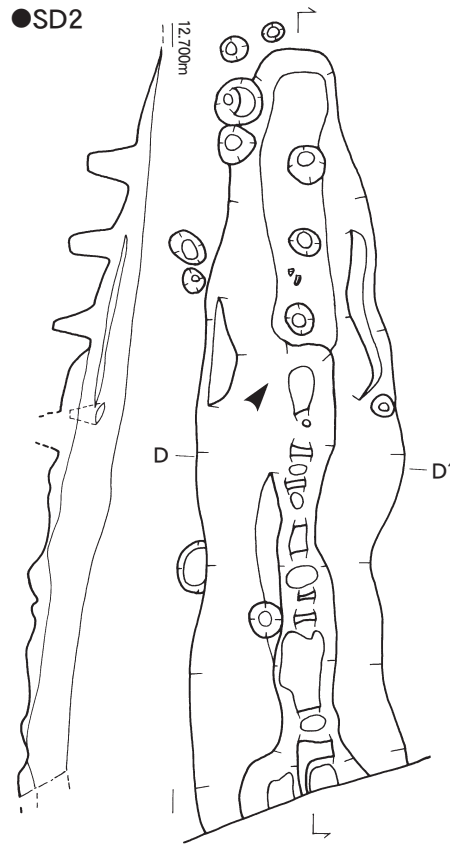
SD2の南側で検出した北西-南東方向を指向する溝状遺構である。SD2同様東端は調査区外となり全形は不明。長さ5.9m+ α 、最大幅1.6m、深さ32cmを測る。底面に小穴や平面楕円形状の凹凸がある。SD2同様凹凸の最下層はしまりの強い黒褐色砂質土でザラザラとした質感であった。これらの小穴は底面ではほぼ直線状に並んでいる。

遺物は少量出土した。5は土師器。甕の胴部であろうか。

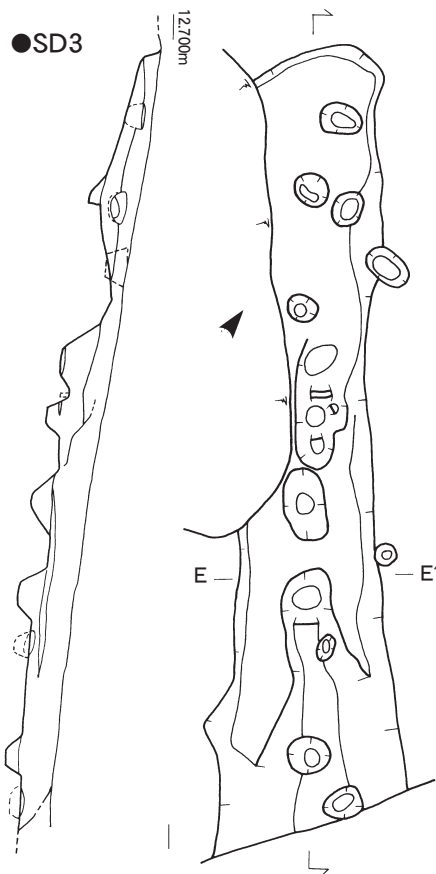
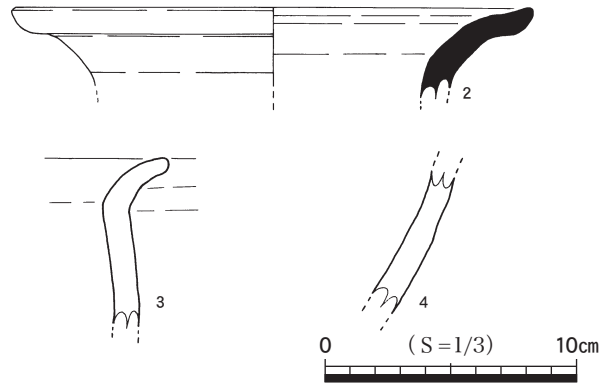
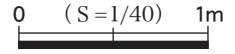
SD2・3は並行しており、また底面の状況など類似点が多い。古墳時代に同じ目的で構築された遺構と考えられる。硬質の埋土をもち連続して小穴などが掘削されるため、その性格は道路状遺構と推測する。



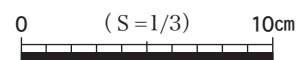
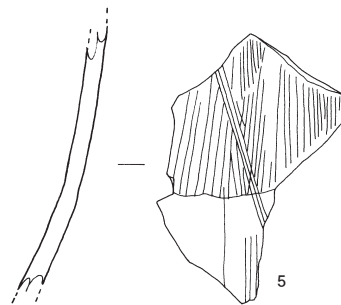
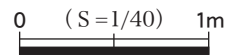
第5図 1区遺構配置図 (S=1/200)



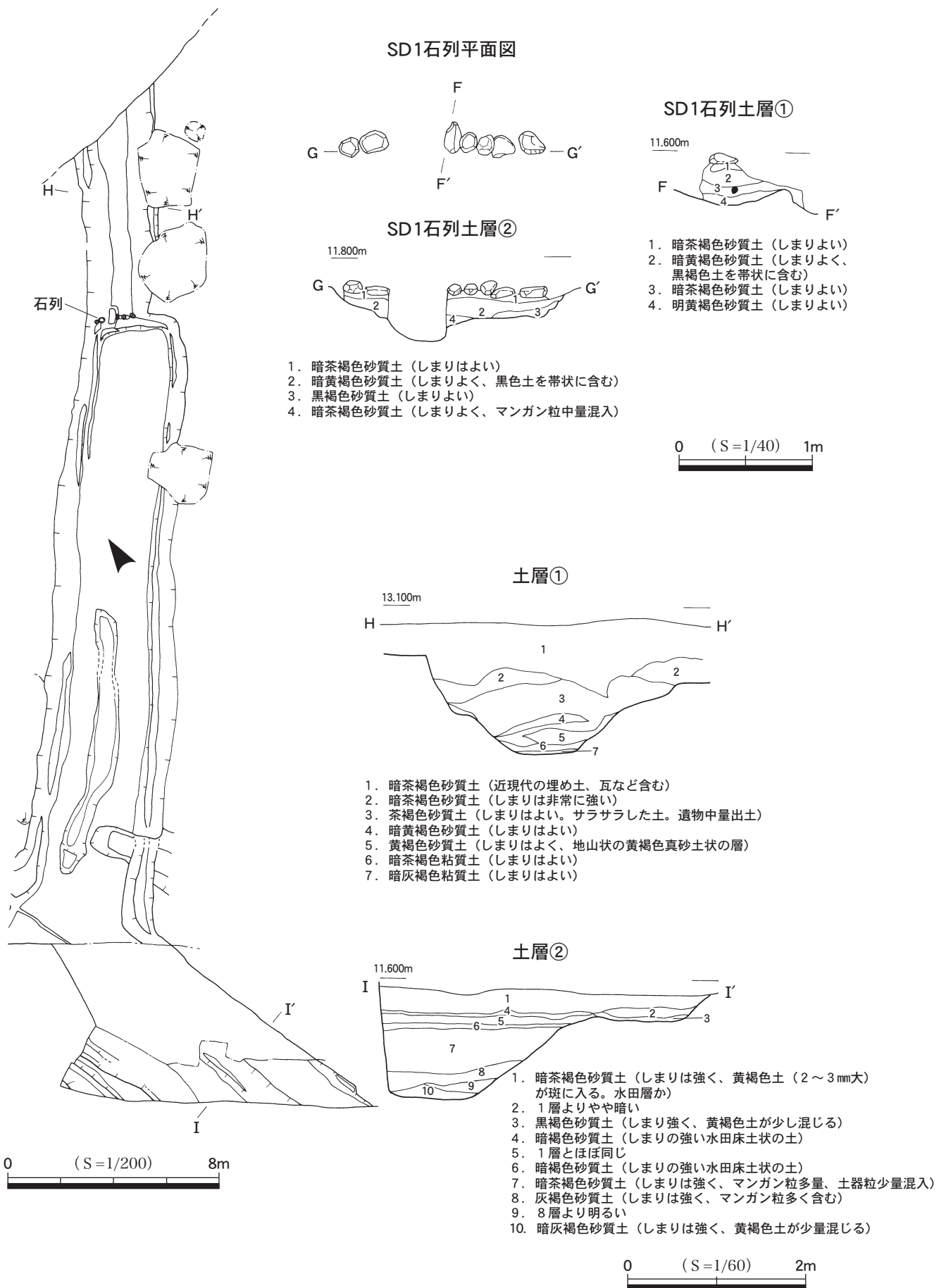
1. 黒褐色砂質土（しまりは弱い。土器片少量。2～3cm大黒色ブロック少量含む）
2. 暗茶褐色砂質土（しまりはよい。土器粒少量含む）
3. 黒褐色砂質土（しまりは非常に強い）



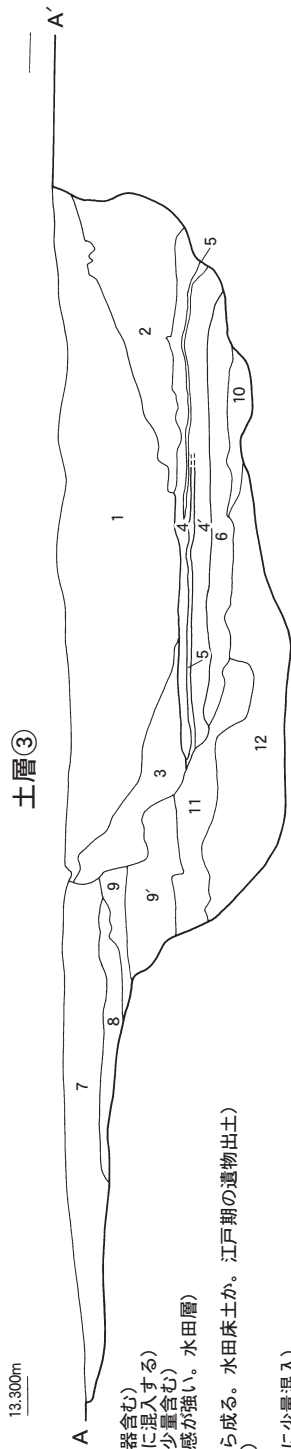
1. 暗茶褐色砂質土（しまりはよく、1mm大土器粒微量）
2. 黒褐色砂質土（しまりは強く、ザラザラした質感）



第6図 1区SD2・3平面・断面図 (S=1/60) 土層図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)

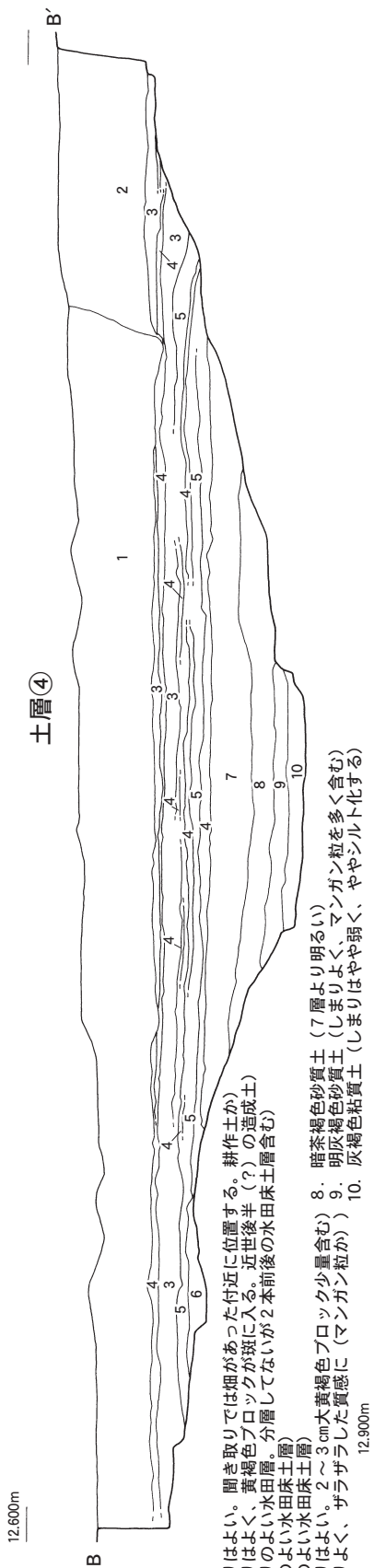


第7図 1区SD1平面図 (S=1/200) 土層図 (S=1/60) 石列平面・立面・土層図 (S=1/40)



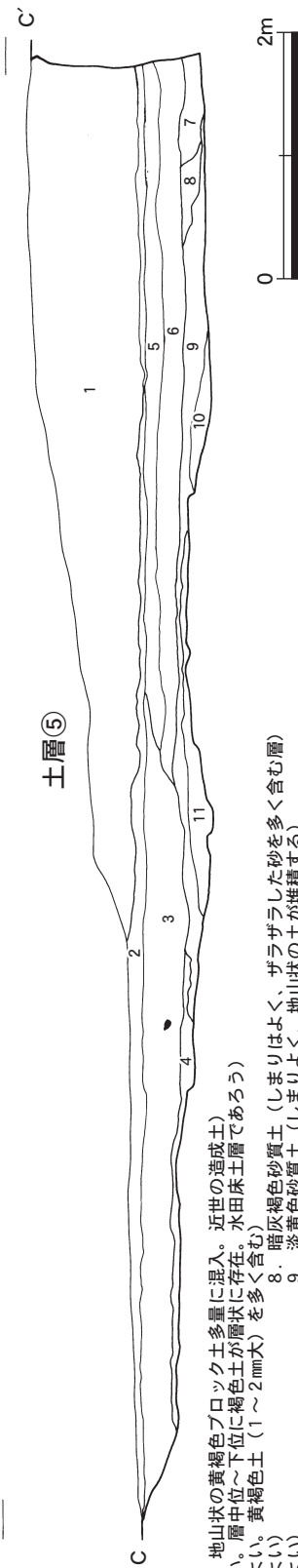
土層③

1. 暗黄褐色砂質土 (しまりは強く、近現代の陶磁器含む)
2. 暗橙褐色砂質土 (しまりは強く、黒褐色土が斑に混入する)
3. 暗茶褐色砂質土 (しまりは強く、1mm大炭粒を少量含む)
4. 暗茶褐色砂質土 (しまりは強く、3層より砂質感が強い。水田層)
- 4'. 4層より暗い
5. 暗褐色砂質土 (しまりは強く、酸化鉄状の土から成る。水田床土か。江戸期の遺物出土)
6. 暗茶褐色砂質土 (しまりは非常に強い)
7. 暗茶褐色砂質土 (しまりは非常に強い)
8. 暗茶褐色砂質土 (しまりは強く、白土が層下位に少量混入)
9. 暗茶褐色砂質土 (しまりは強く、1~2cm大茶褐色ブロック少量混入)
- 9'. 暗茶褐色砂質土 (しまりは強く、1~2cm大茶褐色ブロック少量混入)
10. 暗茶褐色砂質土 (しまりは強く、1~2cm大炭粒少量混入)
11. 茶褐色砂質土 (しまりは非常に強く、暗黄色ブロック多量に混入)
12. 明茶褐色砂質土 (しまりは非常に強く、10cm大白色ブロック多量に混入)



土層④

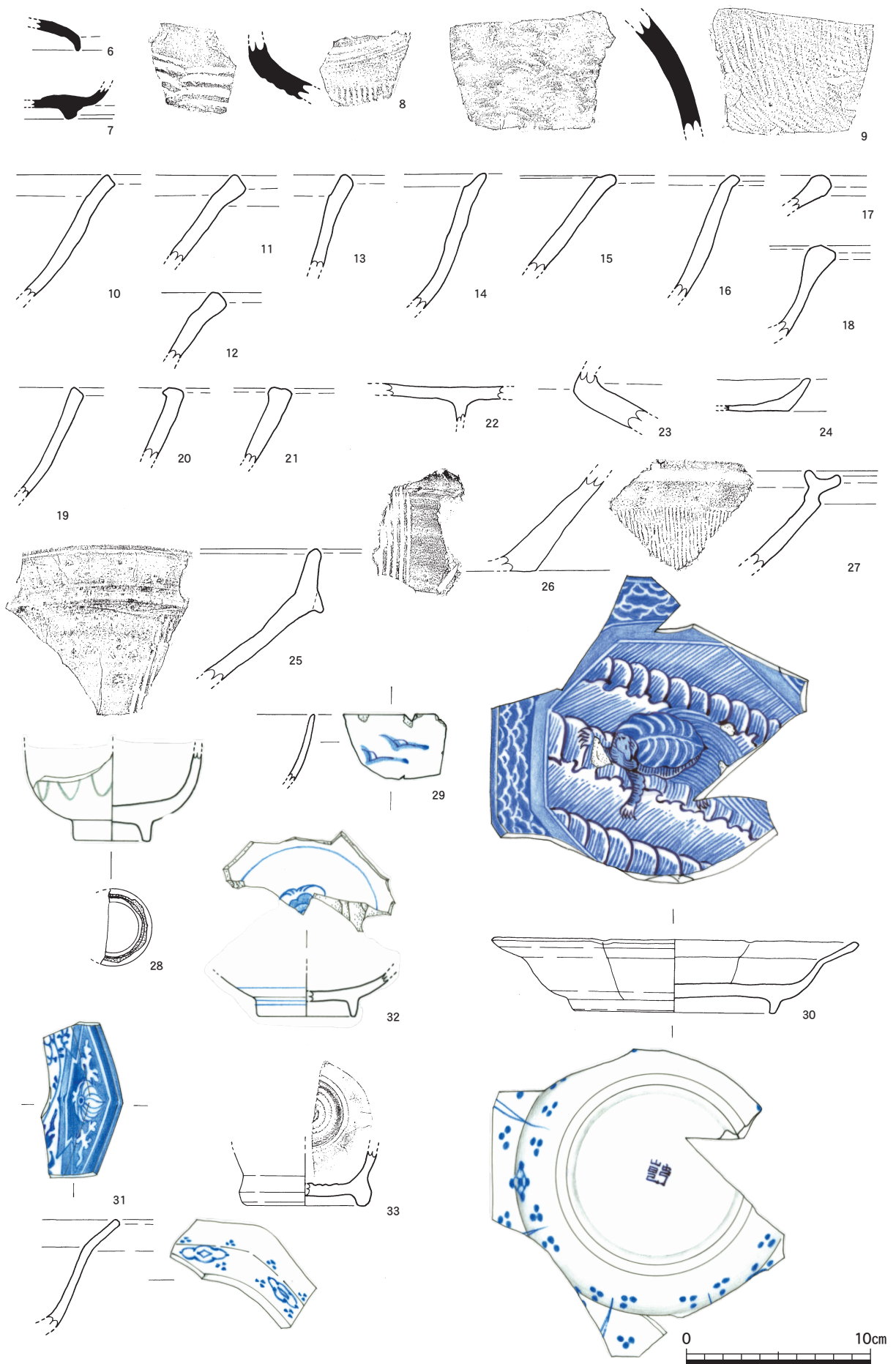
1. 暗灰褐色砂質土 (しまりはよい。聞き取りでは畑があった付近に位置する。耕作土か)
2. 暗橙褐色砂質土 (しまりはよく、黄褐色ブロックが斑に入る。近世後半(?)の造成土)
3. 暗灰褐色砂質土 (しまりのよい水田層。分層してないが2本前後の水田床土層含む)
4. 暗褐色砂質土 (しまりのよい水田床土層)
5. 灰褐色砂質土 (しまりはよい。2~3cm大黄褐色ブロック少量含む)
6. 暗茶褐色砂質土 (しまりはよい。マンガン粒を多く含む)
7. 暗茶褐色砂質土 (しまりはよく、ザラザラした質感に(マンガン粒か))
8. 暗茶褐色砂質土 (7層より明るい)
9. 明灰褐色砂質土 (しまりよく、マンガン粒を多く含む)
10. 灰褐色粘質土 (しまりはやや弱く、ややシルト化する)



土層⑤

1. 茶褐色砂質土 (しまりよい。地山状の黄褐色ブロック土多量に混入。近世の造成土)
2. 暗灰褐色砂質土 (しまりよい。層中位~下位に褐色土が層状に存在。水田床土層である)
3. 暗茶褐色砂質土 (しまりはよい。黄褐色土(1~2mm大)を多く含む)
4. 暗灰褐色砂質土 (しまりはよい)
5. 暗灰褐色砂質土 (しまりはよい)
6. 暗灰褐色砂質土 (しまりはよく、5層より暗い)
7. 黒褐色砂質土 (しまりよく、暗黄褐色ブロック土少量混入)
8. 暗灰褐色砂質土 (しまりはよく、ザラザラした砂を多く含む層)
9. 淡黄色砂質土 (しまりよく、地山状の土が堆積する)
10. 暗灰褐色砂質土 (しまりよく、やや粘性を帯びる)
11. 暗灰褐色砂質土 (しまりよく、ザラザラした砂を多く含む)

図8 1区SD1 土層図 (S=1/60)



第9图 1区SD1 出土遺物 (S=1/3)

中世の遺構と遺物

溝状遺構

SD1 (第7図)

調査区中央西よりから南で検出した。全長約42m、調査区北側は北東-南西方向を指向し調査区南端部で南に曲がる。溝は北端付近にクランクがあり、そこを境にして中央部付近は幅が広がる。北端の幅の狭い箇所は、長さ7m、最大幅2.4m、深さ90cmを測り、溝の断面は「U」字状を呈する。中央部分は最大幅4.5mを測り北端部よりやや深くなる。第7図土層①を見ると、北端部はある時期一度に埋め戻された状況であるのに対し、中央部の第8図土層③・④では、水平堆積を示す箇所が多くある点が異なる。この水平堆積層は酸化鉄やマンガン粒などを含む水田由来の土質を示し、土層④ではこの水田層が数層にわたり確認できることから、繰り返し水田が営まれていたことがわかる。水田床土層と考えられる土層③5層からは近世の遺物が出土している。溝の底面はやや凹凸がみられ、中央部に長さ10m、幅80cmの窪みが認められる。拡幅前の溝状遺構底面の名残である可能性がある。

さらに、北端部と中央部の境から7個の川原石を並べた遺構を検出した。川原石は直線状に並んでおり、その下の土と合わせて堰状の遺構と考えられる。石が確認されない中央部は取水口である可能性が高い。よって、本遺構はもともと北端部の幅の狭い中世の溝状遺構を近世の段階で拡幅し水田として利用したものと考えられる。

遺物は中量出土した。6～9は須恵器。6は蓋。8世紀前半の資料。7は高台付き壺。8世紀前半代。8は甕の肩部か。9は甕の胴部片。10～23は瓦質土器。10～16は鍋。10～15の口縁部はわずかに外反する。16は受け部をもつ。17～21は鉢。17・18は肥厚する口縁部をもつ。20・21は端部が内側へわずかに肥厚する。22は底部。23は甕か。24は土師質土器の小皿。25は15世紀後半の備前産播鉢。溝中央付近で底面直上にて出土した。26は瓦質土器の播鉢。27は陶器の播鉢。28～33は磁器。28・29は碗。30は角形の皿で内面に亀を描く。31は角形の鉢。32は皿。33は青磁釉の瓶の底部。近世の資料は19世紀代の所産と考えられる。

25などの資料から中世の溝状遺構の機能した時期は15世紀後半と考えられる。最終的に溝(水田)は19世紀代に埋没した可能性が高い。

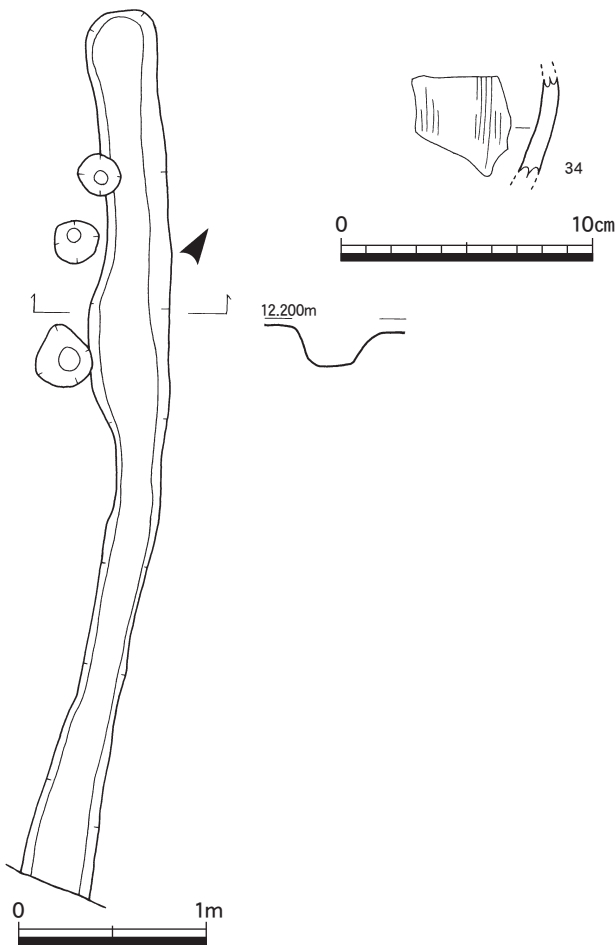
SD4 (第10図)

調査区中央東よりで検出した。北西-南東方向を指向し東端は調査区外となる。長さ4.2m + α 、最大幅42cm、深さ20cmを測り、やや湾曲する。底面はフラットで凹凸はない。

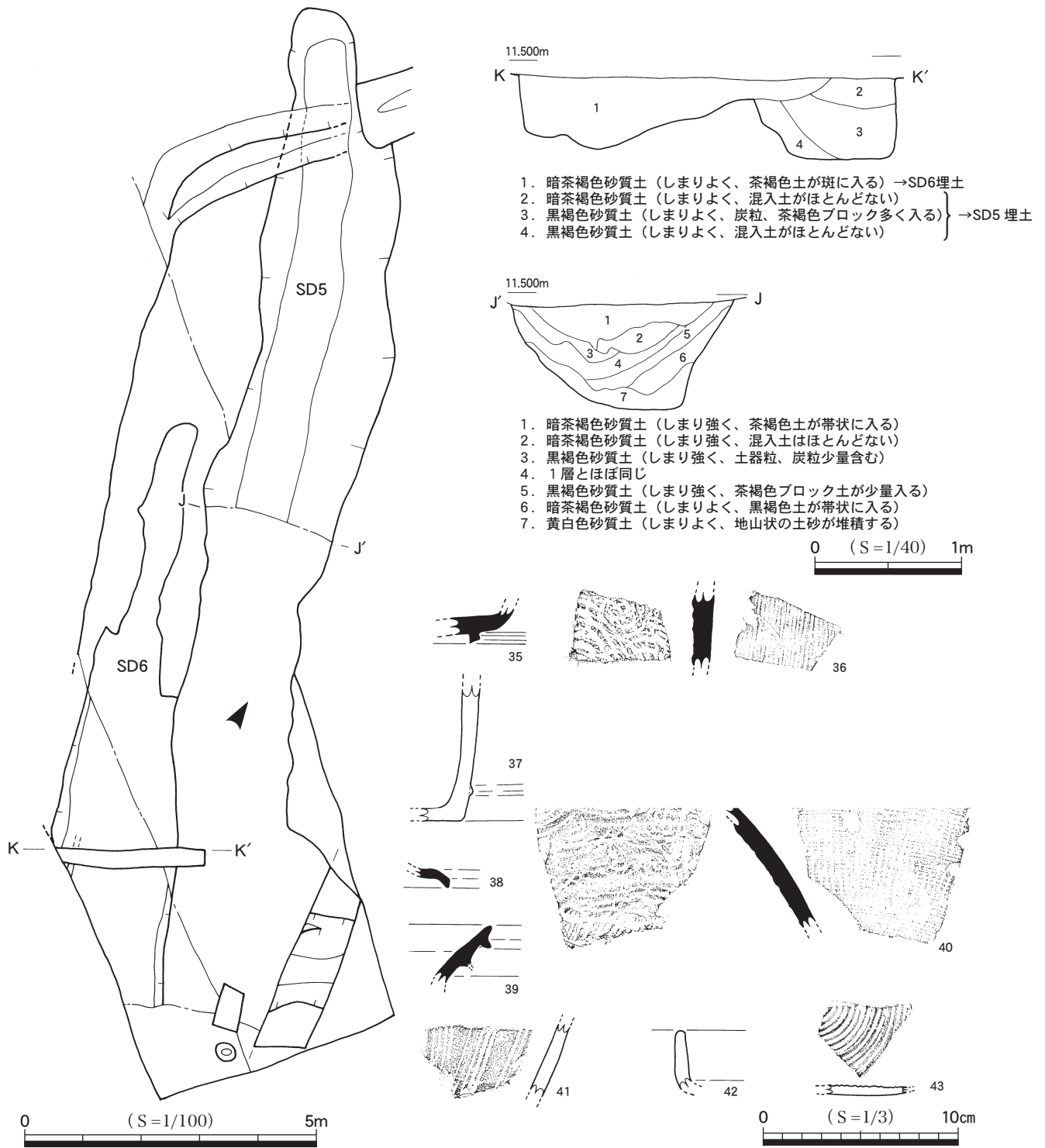
遺物は少量出土した。34は瓦質土器で播鉢の破片である。

SD5 (第11図)

調査区南で検出した。北西-南東方向を指向し、南端部で東側へ屈曲し調査区外となる。長さ15.5m + α 、最大幅4.2m、深さ1mを測る。北端部はSD1と重複し途切れている。溝の



第10図 1区SD4 平面・断面図 (S=1/40)
出土遺物 (S=1/3)



第11図 1区SD5・6平面図 (S=1/100) 土層図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)

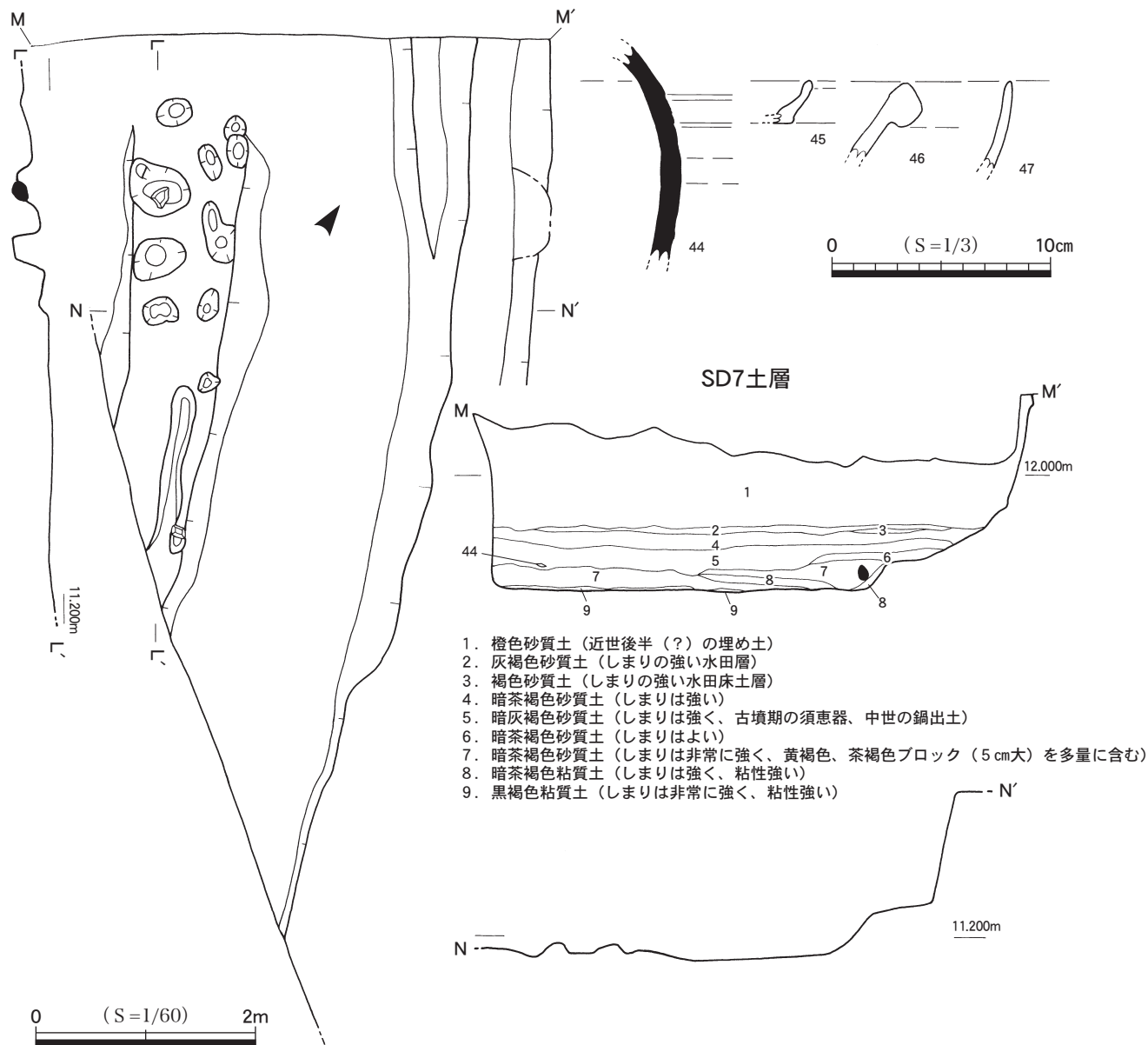
埋土は自然堆積ではなく、人為的堆積を示しある時期一度に埋没したものと考えられる。

遺物は少量出土した。35・36は須恵器。35は高台付き碗。8世紀前半の資料。36は胴部片。甕か。37は瓦質土器。火鉢の底部。外面に突帯あり。

SD6 (第11図)

調査区南で検出しSD5と並行する。長さ10m、幅2.1m、深さ48cmを測る。SD5と重複し、その一部を切っている。

遺物は少量出土した。38～40は須恵器。38は蓋。8世紀中頃の資料。39は口縁部で突帯が2本



第12図 1区SD7平面・断面・土層図 (S=1/60) 出土遺物 (S=1/3)

付く。40は甕の胴部。41～43は瓦質土器。41は播鉢。42・43は器種不明である。

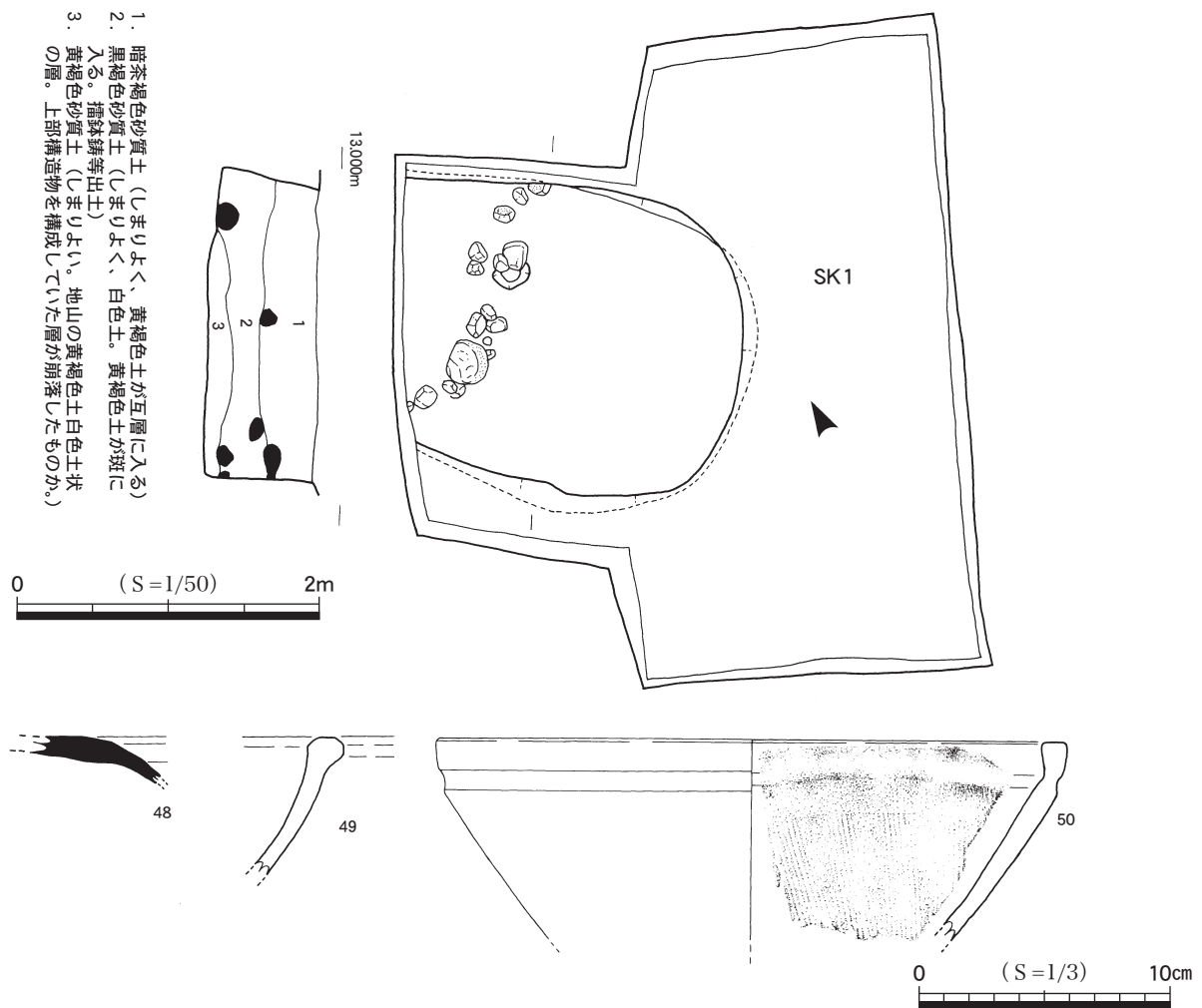
SD7 (第12図)

調査区西端で検出した。南北方向を指向する。溝の両端は調査区外や未掘地点に入り全形は不明。長さ8m+ α 、幅3.9m、深さ1.5mを測る。溝の西側は複数の小穴があり、一段低い東側は浅い溝形状となる。西側床面の小穴は、古墳時代のSD2・3のように一直線上に並ばず、規則的な配置を取らない。遺構は道路状遺構とも考えられるがその性格は断定できていない。

遺物は少量出土した。44は須恵器。壺の胴部か。45は土師質土器の小皿。46は瓦質土器の鉢。口縁部が方形に肥厚する。47は磁器の碗。

2. 2区の遺構と遺物

2区は全体調査区の西側に位置する。市道拡幅地点で検出した遺構である。付近は近代の地下げが著しく、本遺構以外は検出してない。



第13図 2区遺構配置図 (S=1/50) 出土遺物 (S=1/3)

中世の遺構と遺物

土 壙

SK1 (第13図)

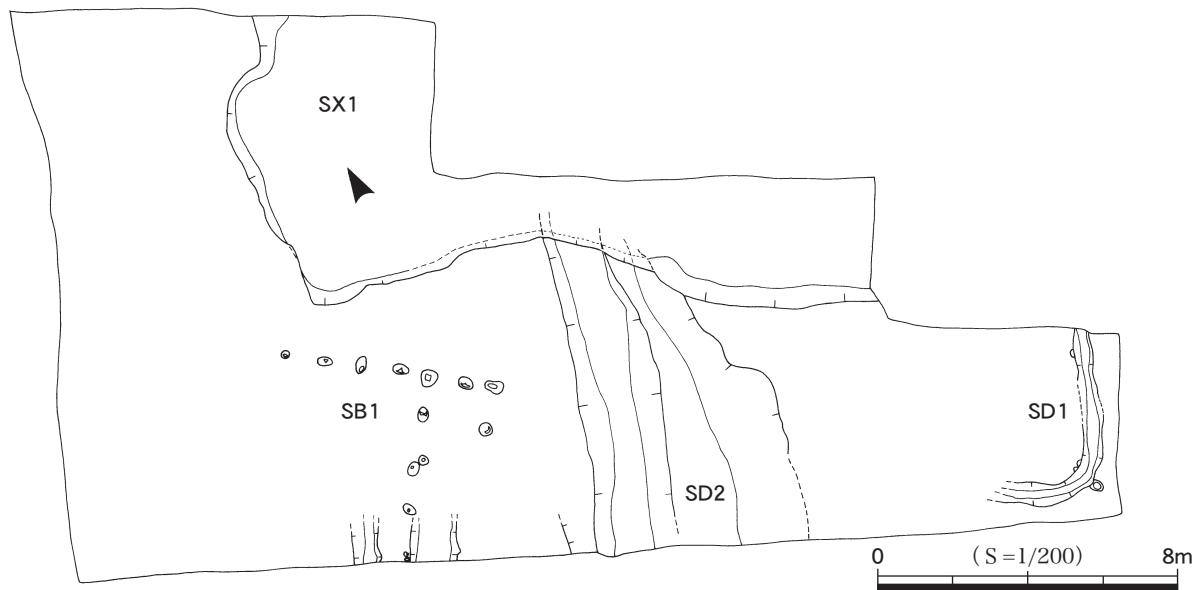
長軸2.3m+ α 、最大幅2m、深さ70cmを測る。底面の形状はフラットで、拳大や人頭大の石を十数個検出した。一部被熱していた石もある。壁面はややオーバハンクしている。

遺物は少量出土した。48は須恵器で蓋の一部。49・50は瓦質土器。49は鉢。16世紀代の所産。50は播鉢。端部は一度くびれ直立し方形を呈す。

本遺構は平面や壁面の形状から地下式土壙と考えられ、出土遺物から16世紀代に機能したと推定する。

3. 3区の遺構と遺物

3区は調査区北端の調査区である(第16図)。遺構密度は低い。1区同様、西側の削平が著しく、表土の厚さは20cm程度であった。所々近代の攪乱の影響も受けており、遺構が一部損壊している箇所も見られた。中世の溝状遺構や性格不明遺構、近世の掘立柱建物などを検出した。表土剥ぎの際、掘立柱建物付近は遺構検出面を掘り過ぎており、掘立柱建物の柱穴を削平した可能性もある。



第14図 3区遺構配置図 (S=1/200)

中世の遺構と遺物

溝状遺構

SD1 (第15図)

調査区東端で検出した。南北方向を指向し、南で逆「L」字状に湾曲する。長さ6.4m、最大幅64cm、深さ14cmを測る。遺物は少量出土した。51は土師質土器の皿。口縁部がわずかに外反する。本遺物は後述するSD2出土資料と接合している。

SD2 (第16～18図)

調査区中央で検出した。南北方向を指向する。1区SD1の延長部分にあたる。長さ9.8mを測り、溝は埋没後一度掘り返しが行われている。当初の溝幅は5m、深さ1.4m、掘り返しの溝は幅4.2m、深さ1.9mである。溝は北側で後述のSX1に切られている。当初の溝の底面に遺物集中区があり、完形の鍋 (No.60) や人頭大の石などが出土した。

遺物は中量出土した。52は用途不明の須恵器。53は土師器。甕の取手。54～80は瓦質土器。54～64は鍋。54～57の鍋は、口縁端部が外方に短く屈曲する。54は外面に荒いミガキとケズリを施す。57は外面をナデとヘラケズリとする。58は55などに比べると口縁部はやや長く外反する。外面はナデとヘラケズリとする。59の端部は先端部他に比べて薄い。外面はケズリのちナデ、内面はナデとする。60は遺物集中区で出土した完形の資料。出土した際は押しつぶされたような形で出土したが元々は完形で遺棄されたと思われる。外面はヘラケズリ、内面はヨコナデで仕上げる。15世紀代の資料。61は外面全体にこげがある。15世紀代の資料。62は端部が短く水平方向に外方へ突出する。63はやや上向きの注口がある。64は外面ヨコナデとケズリを施し、内面にミガキがある。65は鉢で外面をヨコナデで仕上げる。66は搦鉢で端部を折り返して仕上げ、方形状を呈する。67は火鉢の底部。突帯が1条巡る。68は火鉢もしくは手あぶりの取手。穿孔があり獅子の顔が描かれる。鼻部は欠損する。69は復元口径49cmの大型鉢。外面をヨコナデとケズリのちナデ、内面をヨコナデとナデで仕上げる。外面に黒斑あり。70～72は搦鉢。内外面ヨコナデで仕上げる。口縁部内外面に沈線が巡

る。すり目は弧を描き特徴的である。71は外面ヘラケズリとする。すり目の間隔は広い。産地不明。16世紀代の資料。72もすり目の間隔は広い。見込みにも入念にすり目が施されている。1cm幅のすり目に4本の筋がある。73・74は茶釜。ともに穿孔のある取手が胴部最大径から少し上に付く。74の口縁部立ち上がりは開き気味である。75は壺。外面はケズリのちナデがみられる。76は甕。77は土錘。長さ5cm程度と短く厚みがある。78は皿。内外面はヨコナデとする。79は口縁部。80は用途不明の底部。分厚い高台が付く。81・82は砥石。81は砂岩系。82は凝灰岩か。両資料とも擦痕が認められる。

当初の溝から出土したNo.60などの資料から溝が機能した時期は15世紀代と推定する。その後溝は埋没し、一度掘り返しが行われた様子である。

SX1 (第19図)

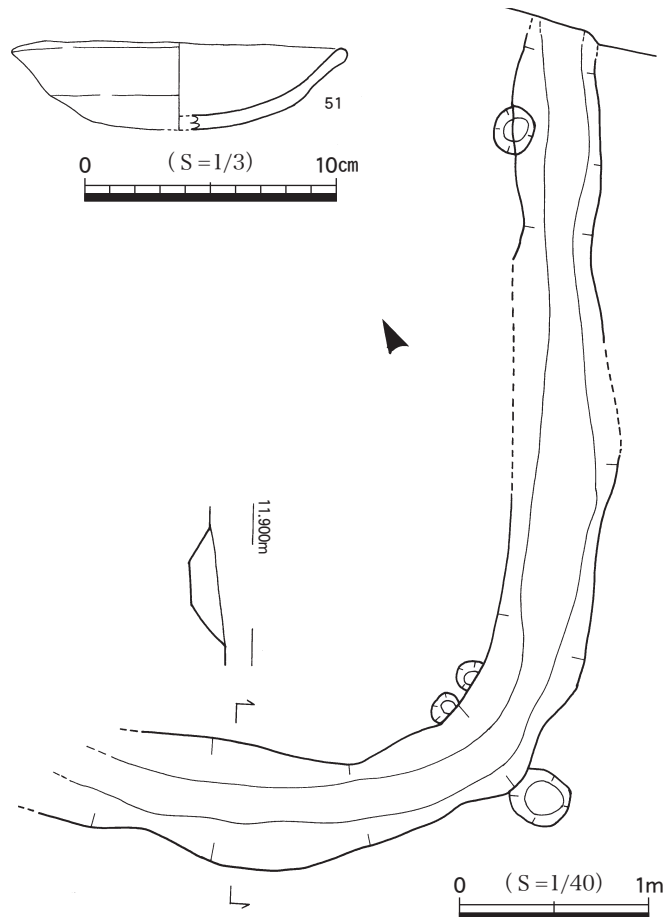
調査区北で検出した。調査区外に及び全形は不明ながら、長軸 $17\text{m} + \alpha$ 、短軸 $7.5\text{m} + \alpha$ 、深さ78cmを測る。近代の造成土、近世の遺物を包含する層序などが認められたが、底面直上より中世後半代の所産とみられるNo.83・84が出土したため中世に構築された遺構と判断している。

遺物は少量出土した。83・84は瓦質土器である。83は搦鉢。口縁部と体部の境に突帯が付けられている。内面のすり目間隔は比較的密で、1.5cm幅のすり目に6本の筋がある。外面はヨコナデとヘラケズリで仕上げる。84は鍋。内面に受けの段差がある。85は近世の甕。肩部付近は格子目叩きとする。

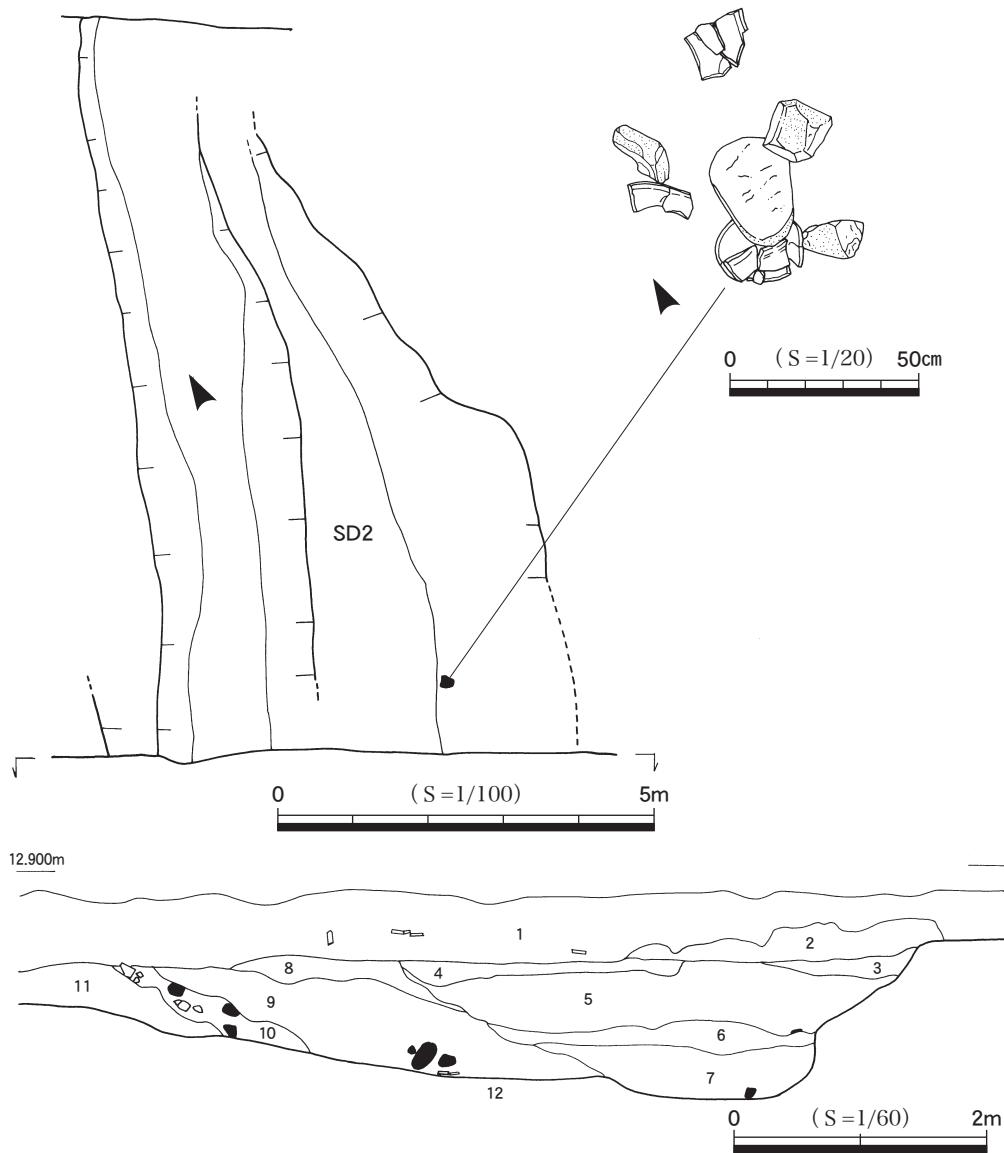
SB1 (第20図)

調査区中央西よりで検出した。柱穴列が並ぶため掘立柱建物と想定している。南端の柱穴は庇部と思われる。内側の位置に柱穴がないため総柱建物ではなく側柱建物と考えられる。建物の西側部分の柱穴は後世の削平により失われた可能性がある。柱穴直径20～46cm、復元建物面積 27m^2 を測る。柱穴には直径10～26cmの柱痕跡を2箇所確認している。重複しないことから柱穴に2本の柱を立てて建物床を支えていたことがわかる。柱間隔は建物南側列1～1.4m、東側列0.7～1.1mを測る。建物南側列の西端と東側列の北端の柱穴は一段高い箇所認められる。地形に左右されたためと推測する。掘削手順としては、まず柱穴を掘り、底面に2箇所柱位置を決めたのち、深さ30～50cm程度まで柱を据えるための穴を掘ったか、もしくは柱穴底面に柱材を直接打ち込んだものと思われる。

遺物は少量出土した。86は平瓦である。近世の所産であろう。



第15図 3区SD1平面・断面図 (S=1/40)
出土遺物 (S=1/3)

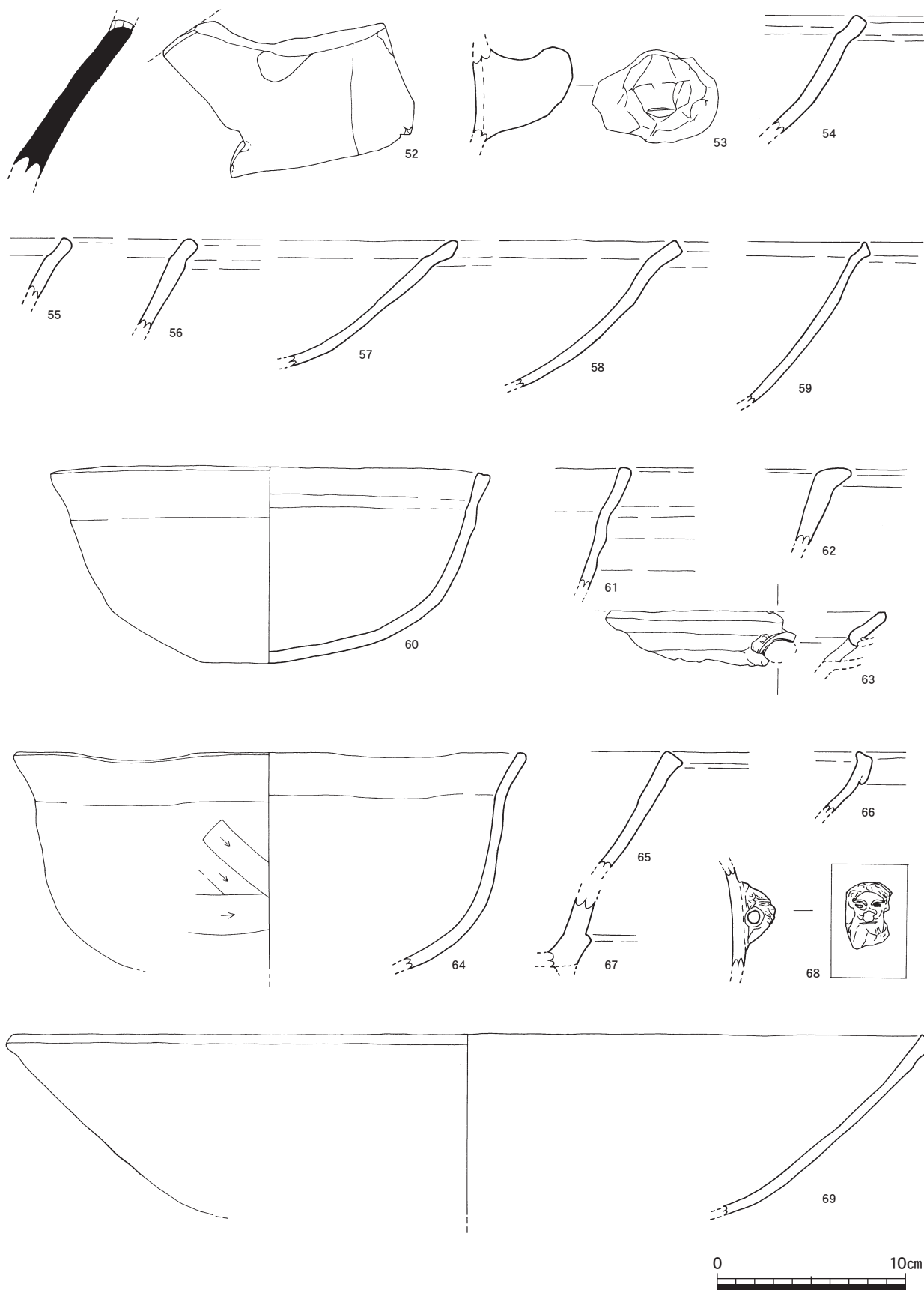


- 掘り返しの溝埋土
1. 暗茶褐色砂質土 (近現代の造成土)
 2. 黄褐色砂質土 (近現代の造成土)
 3. 暗灰褐色砂質土 (しまりは強い)
 4. 暗茶褐色砂質土 (しまりは強い。層中～下位に黄褐色地山ブロック多く含む)
 5. 暗茶褐色砂質土 (しまりは強い。地山ブロックを含まない)
 6. 暗茶褐色砂質土 (しまりは強い。黒褐色ブロック、地山ブロック少し含む。古墳～中世の遺物含む。中世主体)
 7. 暗茶褐色砂質土 (しまりは強い。4～6層より緻密な層。拳大地山ブロック、5cm大地山ブロック中量含む)
 8. 暗茶褐色砂質土 (しまりは強い。2～3cm大地山ブロック中量含む)
 9. 暗茶褐色砂質土 (しまりは非常に強い。拳大地山ブロックを多量に含み暗茶褐色気味の色調を呈す。瓦器塊含む)
 10. 黒褐色砂質土 (しまりはやや強い。銅など遺物多く含む。炭中量混入)
 11. 灰白色砂質土 (しまりは強い。地山。帯状に橙褐色土入る)
 12. 黄褐色砂質土 (しまりは強い。地山)

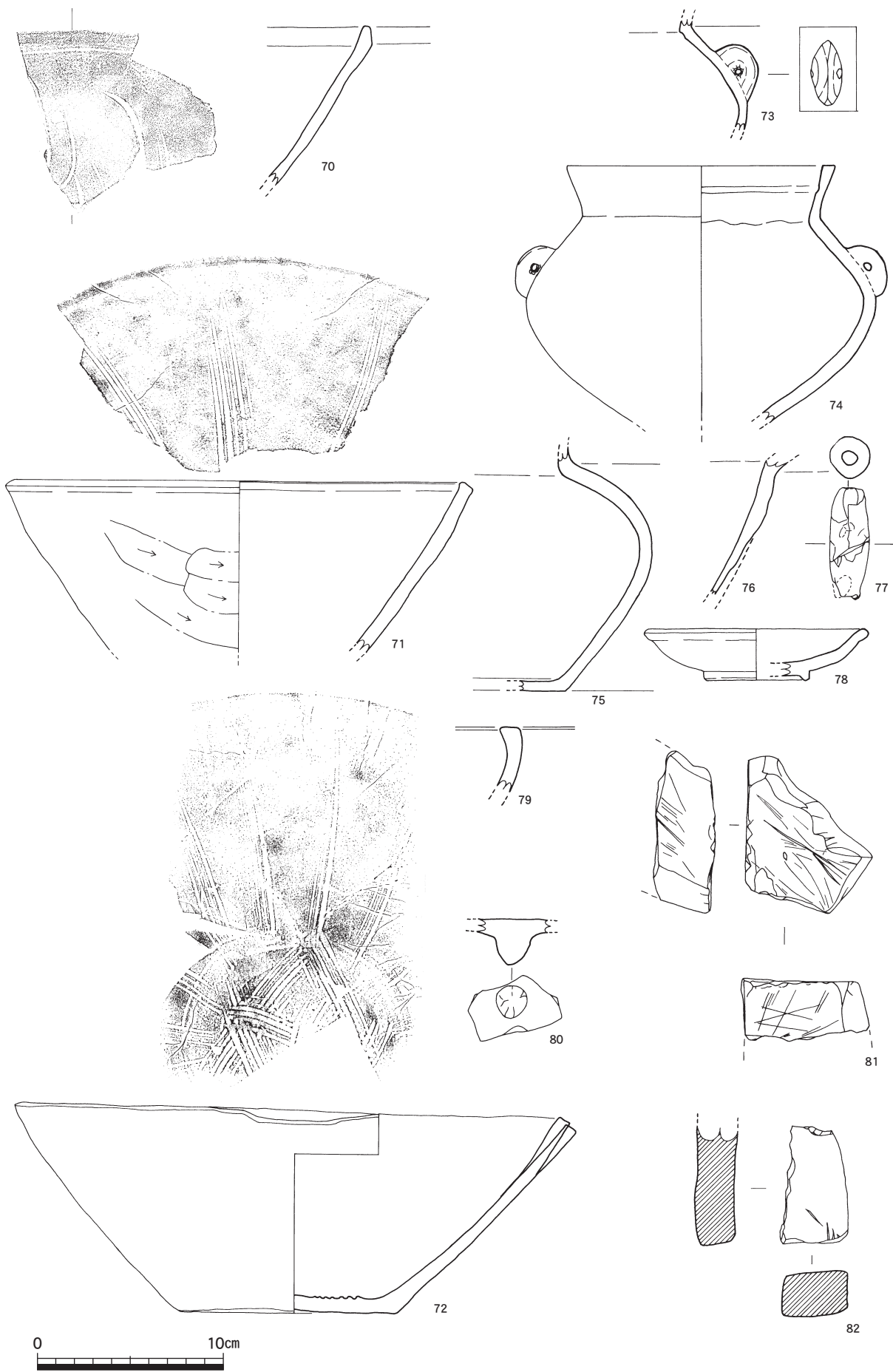
第16図 3区SD2平面図 (S=1/100) 土層図 (S=1/60) 出土遺物 (S=1/20)

4. 4区の遺構と遺物

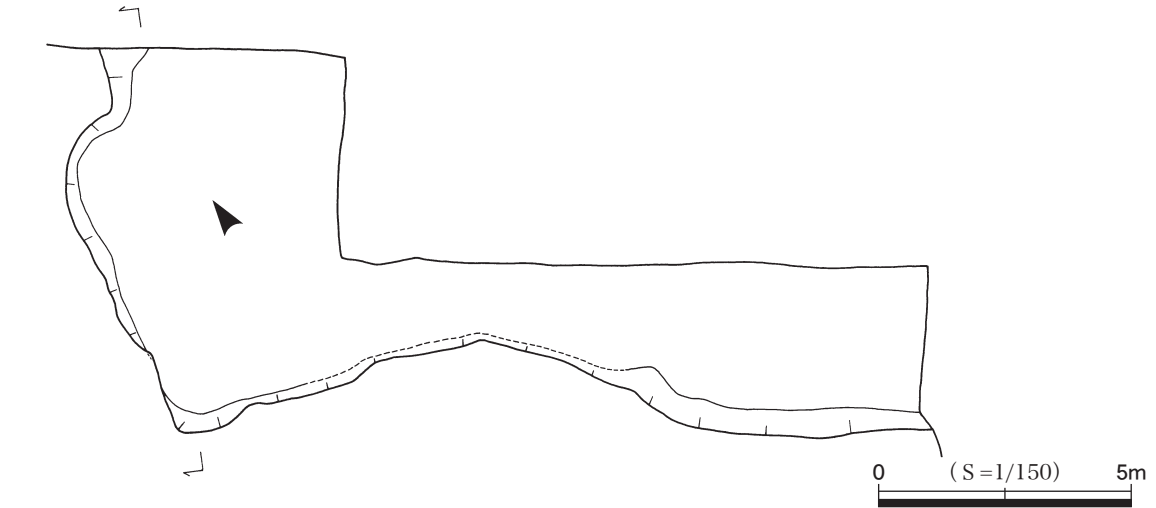
調査区東端に塚状の遺構が存在した (第21図)。本遺構は確認調査時に竹が繁茂しており形状が不明確であったが、伐採後、西側にやや張り出す楕円形状であることが分かった。



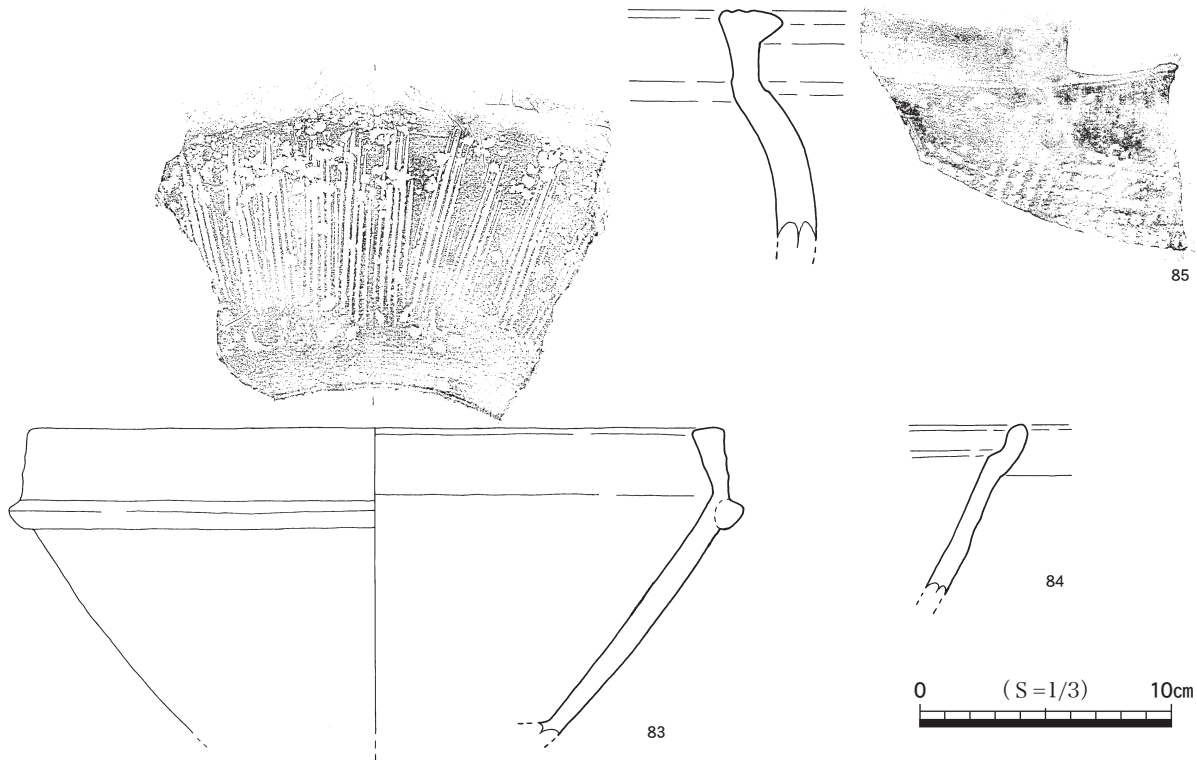
第17图 3区SD2出土遺物① (S=1/3)



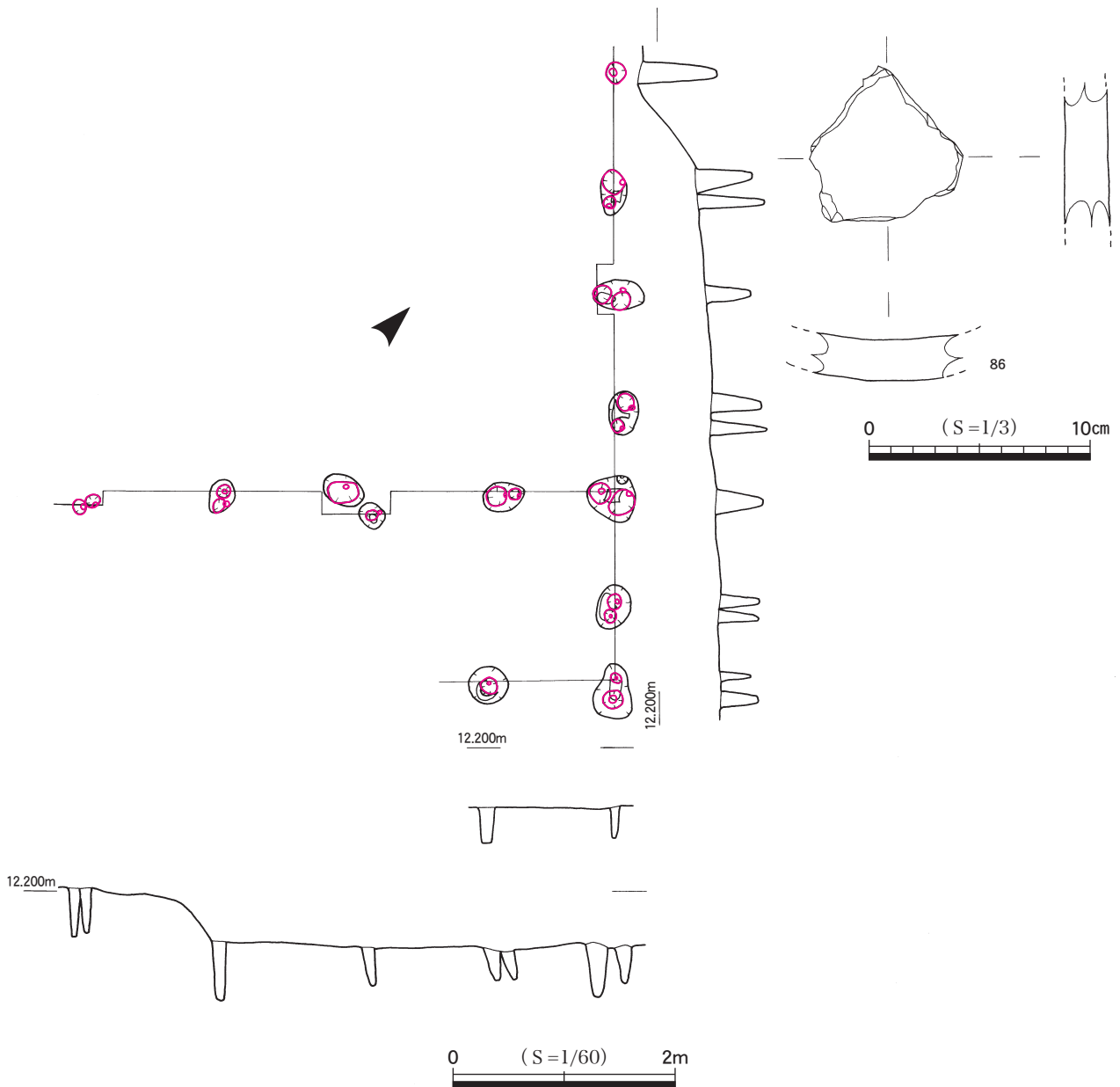
第18図 3区SD2出土遺物② (S=1/3)



1. 灰褐色砂質土（しまりよく、マンガン粒を多く含む。近代の層）
2. 灰褐色砂土（しまりよい。茶褐色粘質ブロック土少量含む）
3. 灰色砂土（しまりよい。黄白色粘質ブロック土中量含む）
4. 茶褐色砂質土（しまりよい。近世後半の遺物含む）
- 4'. 暗茶褐色砂質土（しまりはよい。4層と似る）
5. 暗茶褐色砂質土（しまりはよい。10cm大黄白色粘質ブロック土多量）



第19図 3区SX1平面図 (S=1/150) 土層図 (S=1/60) 出土遺物 (S=1/3)



第20図 3区SB1平面・断面図 (S=1/60) 出土遺物 (S=1/3)

近世の遺構と遺物

塚状遺構

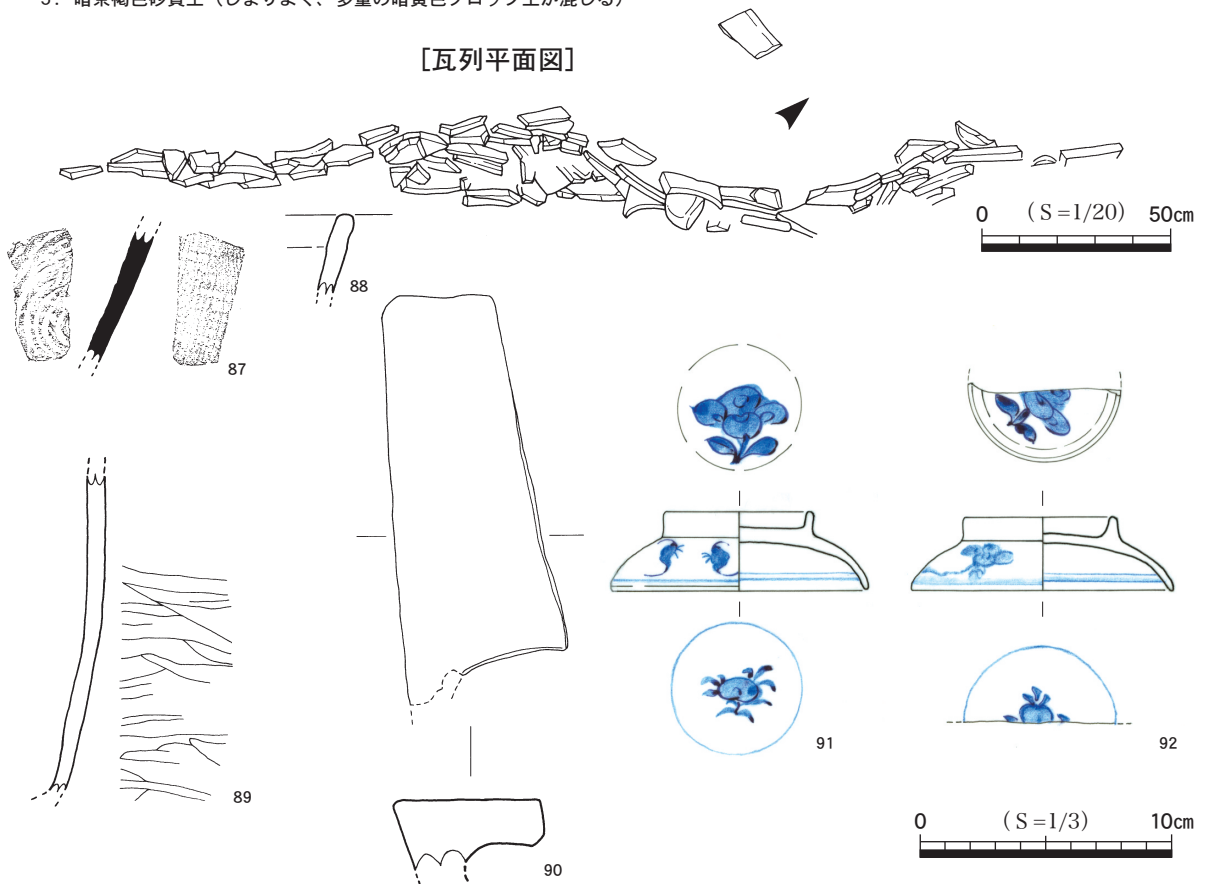
ST1 (第21図)

本遺構は基底部最大幅8.6m、頂部最大幅1.6m、高さ1.8mを測る。裾部は他所から持ち込まれたと思われる十数個の巨石で固められ、法面にも巨石が埋め込まれていた。石祠の笠や五輪塔火輪1点も法面上にあり、頂部には「奉寄進」銘のある石造物の部材、建造物の鬼瓦部が認められた。銘のある石造物には他にも数文字が彫られていたが、風化の影響により判読できなかった。遺構の勾配は東側法面がきつく西側は緩やかである。

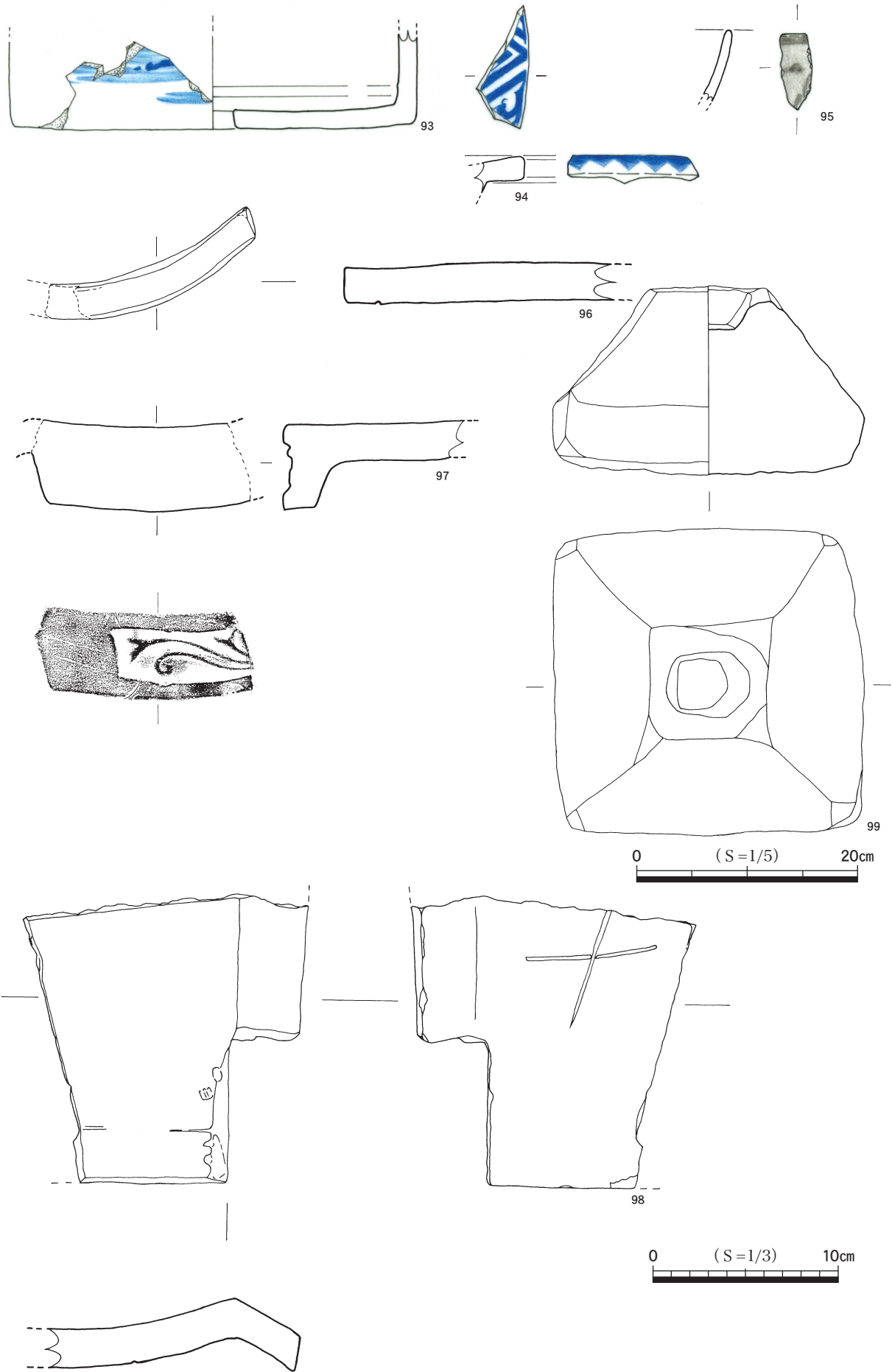


1. 暗茶褐色砂質土（しまりはよい。竹の根等で荒れている。上位は巨石（片岩・安山岩）が露頭状に埋められている）
2. 暗茶褐色砂質土（しまりよく、黄褐色ブロック土、白色ブロック土が多く混入する）
3. 暗灰褐色砂質土（しまりよく、少量茶褐色ブロック土が混じる）
4. 暗茶褐色砂質土（しまりよく、暗黄色ブロック土が少量混じる）
5. 暗茶褐色砂質土（しまりよく、多量の暗黄色ブロック土が混じる）

[瓦列平面図]



第21図 4区ST1等高線図 (S=1/200) 土層図 (S=1/50) ST1内遺物出土状況 (S=1/20) 出土遺物 (S=1/3)



第22図 4区ST1出土遺物 (S=1/3 99のみS=1/5)

内部構造を把握するため遺構を切断するように東西方向のトレンチを1本設定した。その結果、平瓦を中心とした瓦列1列が内部に存在することを確認した。瓦列は幅2.8m、最大幅30cmの範囲に築かれ、高さ50cm程度積み上げられていた。積み上げ方は横方向に瓦を積み重ねるのではなく、縦向きにして積み上げる手法をとる。また、瓦列東側下部付近から本遺構の構築時期を示すと思われる近世後半期の磁器が数点出土している。

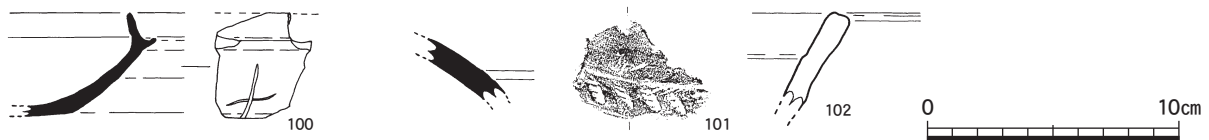
瓦列上下の土層には版築工法を観察できていない。しかし、地山と思われる黄褐色や白色の土がブロック状に混入するしまりのよい層序であった。これらの土を突き固めながら本遺構は構築されたと考えられ、途中段階で本遺構の芯となる瓦列を作り強度を増したものと考えられる。最終的にはその上に厚さ1m程度の土を盛り、本遺構を完成させている。

本遺構は調査当初古墳の可能性も想定していたが、出土遺物から近世後半の所産であることが確定した。近世後半は後述するように本調査地には庄屋屋敷が所在しており、裾部の巨石配置状況と考え合わせると本遺構は庄屋屋敷の庭に築かれていた築山と考える。石祠の部材はこの築山上に設置されていた信仰施設の一部であろう。

遺物は中量出土した。87は須恵器。甕の一部か。88～90は瓦質土器。88は鉢の口縁部。89は胴部片。甕の一部であろうか。90は瓦列から出土した。焜炉の一部もしくは瓦類の可能性もある。91・92は瓦列東端下部で出土した磁器。外面に松や梅などを描く。18世紀後半代の広東碗などの蓋になるものか。93は植木鉢。94は磁器で鉢の口縁部か。95は陶胎染付の碗。96は平瓦。97は軒棧瓦。98は棧瓦。99は小形の五輪塔火輪である。

5. 調査区内出土遺物

遺構に伴わず出土した遺物について報告する。100・101は須恵器。100は杯身。6世紀後半の資料。101は壺か。外面に米粒大の刺突文を施す。102は瓦質土器の鍋である。



第23図 調査区内出土遺物 (S=1/3)

第4章 総括

古墳時代について

今回の調査では古墳時代後期の遺構としてSD2・3を検出した。遺構底面に小穴が連続して並び、底面の土壌が硬化していたことから、現時点では道路状遺構と判断している。

市内においてはこれまで、東浜遺跡、加来東遺跡、伊藤田田中遺跡、市場遺跡、諸田遺跡にて道路状遺構が確認されている。東浜遺跡では古墳時代後期の直線状に連続する小穴を1条検出した。加来東遺跡の遺構は溝内に小穴が直線状に並び、時期も古墳時代後期であり土屋敷遺跡と共通している。一方、古代豊前道跡を検出した伊藤田田中遺跡では波板状土坑が数条並ぶが、それらは溝内に構築されていない。諸田遺跡戸入道地区では、波板状土坑が溝内に重複しながら規則的に並ぶように構築されている。遺構の時期は中世と考えられている。市場遺跡では時期不明の波板状連続土坑が検出されている。

現在のところ中津市管内の道路状遺構は、古墳時代は溝内もしくは地表面に小穴が直線状に並び、古代は波板状連続土坑が数条並ぶが溝内に構築されていない。中世は波板状連続土坑が溝内に構築される傾向がある。時代が下るにつれて、小穴から波板状土坑へ変化する様子が窺えるが、中世の所産とした土屋敷遺跡SD7は小穴が不規則に並んでおり、変遷に妥当性があるのか見通せない。SD7の時期は古墳時代の可能性も含んでおり、他地域の遺構との比較を通してその性格を追求する必要がある。

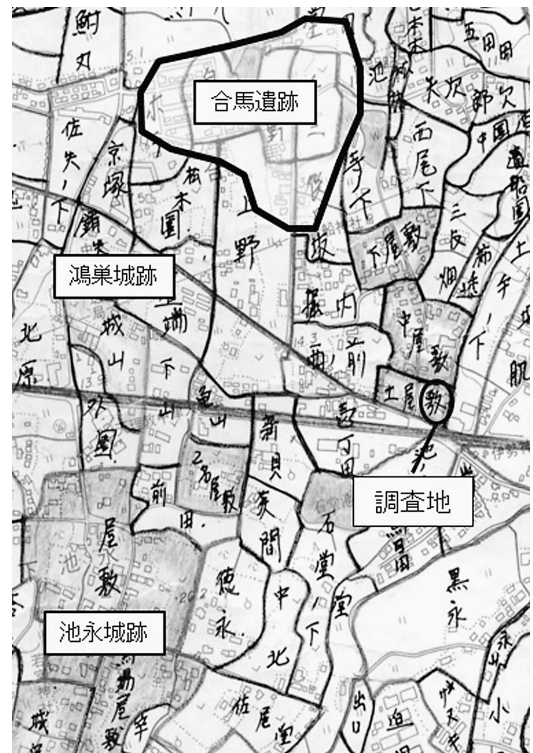
本調査地点が所在する合馬地区は古代の駅家との関りが唱えられた地である。市内における駅家推定地は他に大字高瀬があり、古代豊前道に近いなどの理由からその可能性が高いと考えられている（三重野1991）。今回検出した遺構は駅家との直接的な関係性は低いと考えられるが、奈良時代の遺物が一定量出土していることは注意が必要である。本地点は後述するように近世には交通の要衝であり、時期は異なるが道路状遺構が検出されたことは前代からの土地利用のあり方を考える上で興味深い。

中世について

中世の遺構は溝状遺構を数条検出した。1区SD1は、15世紀代の遺物が一定量出土しているため、当該期に構築されたと思われる。その後16世紀後半段階に一度埋まり、近世に水田として再利用したことがわかった。

調査地の小字「土屋敷」の周囲には北側に「中屋敷」「下屋敷」などの屋敷地名がある。西には池永城跡や鴻巣城跡などの中世城館、北には中世の集落遺跡である合馬遺跡などが分布する。土屋敷遺跡1区SD1や3区SD2などはその規模からおそらく城館に伴う堀跡と考えられる。その堀を近世に石の堰を伴う水田として再利用していることが確認された意義は深い。

合馬地区の中世を知るため次の文書を紹介する。文明16年（1484）の宇佐宮下宮供僧・万徳坊の所領である田畠の坪付を示す「万徳坊領田畠坪付惣帳（到津



第24図 調査地周辺小字図

文書)」である。この文書中に下毛郡大家・野仲両郷内今自見名内に「逢間迫」という田地、「逢間堀内」「逢間生阿屋敷」「逢間又三郎屋敷」「逢間孫三郎屋敷」などの屋敷に付随する畠地の地名がみられる。今自見名の経営基盤が現在の合馬地区にあったことが推定されている（中津市教委2018）。15世紀後半に百姓層とその屋敷が存在したことがわかる。土屋敷遺跡で出土した15世紀代の遺物との関連が想起される。

1区SD1などから出土した遺物は主に鍋類が出土し、土師質土器の小皿が極めて少なく、瓦器埴や中国産陶磁器、16世紀代後半の火鉢や深鉢も認められない。その鍋類は、13・14世紀のタイプがみられず15～16世紀代を主体とし、口縁部内面に段を有すものと有さない複数タイプが存在する⁽¹⁾。今回出土した資料は複数時期の遺物が混在する溝状遺構からの出土であるが、当該期の遺物の特徴や分布を考える上で参考となる資料群になろう。

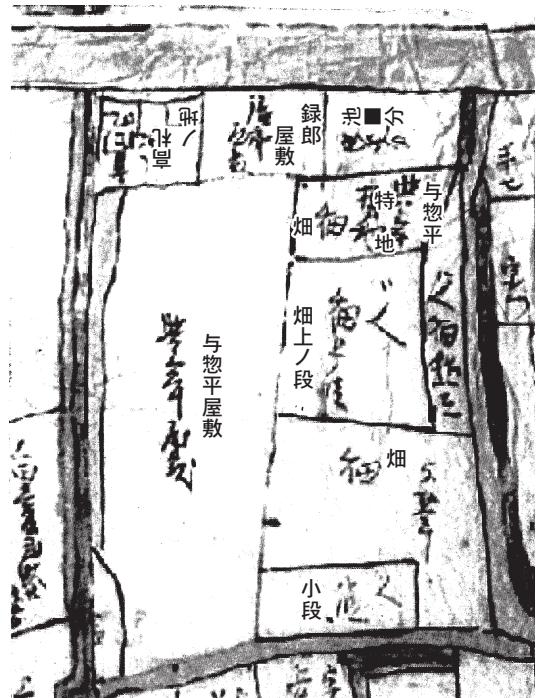
(1)山本哲也氏ご教示。

近世について

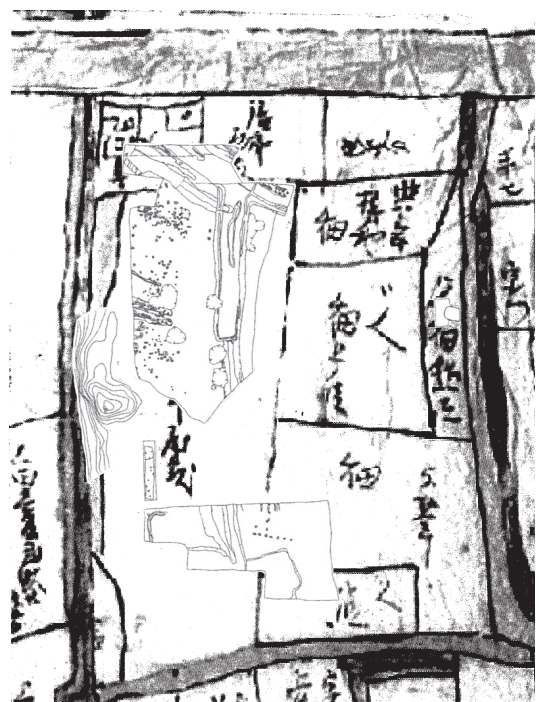
本調査地では近世に溝状遺構を利用した水田が営まれていたことは先に述べた。

調査地点の近世の状況を中津市歴史博物館所蔵の「合馬村絵図」から考える。本絵図は幕末から明治初期のものとされ、地目や面積、所有者などの情報と共にシコナが筆ごとに記されている。第25図は元図から今回調査地点を抜き出したもので、中央左側に庄屋である「与惣平屋敷」があり、広範囲の土地を占有していることがわかる。この図に今回発掘調査した全調査区を重ねてみると、与惣平屋敷地内を中心に調査を行ったことがわかる（第26図）。1区SD1や3区SD2は与惣平屋敷と右側の畑地などの小区画境に位置している。正確に重複していないが、区画方向と溝の指向する方向が同じであることは、溝が区画境として認識されていた可能性も示す。ただし、絵図に「田」の標記がないため、絵図が描かれた段階で溝はわずかなくぼ地として残存していたのかもしれない。

また、絵図右側の畑地には「上ノ段」や「小段」などとも記入されている。第3章第1節で述べたように、調査区西側（絵図の右側）は大規模に削平されていた。上ノ段や小段など地形の高い範囲が近代に削平された可能性が高い。1区SD1の暗黄褐色の



第25図 合馬村絵図（下が北）



第26図 合馬村絵図と調査区（下が北）

溝上層埋土は地山の土質に似ており、溝の埋め戻しにこれらの土が使われたと思われる。

庄屋屋敷には長屋門（写真1）や藩主が鷹狩りの際に立ち寄る「お成りの茶屋」という茶屋（写真2）や築庭があったという（中津市1979）。今回発掘調査したST1はこの築庭に構築されていた築山にあたると思われる。ST1は内部に瓦列を配しており、近世後期の築山の構造の一旦が明らかになった。発掘調査したSB1は庄屋屋敷にあった建造物の柱穴跡と考えられる。

庄屋屋敷周辺を見ると、第25図「与惣平屋敷」の上に「高札ノ地」とある。「高札」とは藩の御触れなどを路傍に提示したものであり、人々が頻繁に往来する場に立てられたと思われる。この地は、中津から宇佐の飛永・大根川方面へ向かう地点にあたり、合馬の辻とも呼ばれていた（中津市1979）。中津城下から1里（約4km）の地でもあり、国道東の小丘にはかつて一里松があったという。現在その松は存在せず、伊勢神社境内へ明治3年に「一里松記念」の碑が建立され、往時の状況を伝えている。

近代以降、庄屋屋敷には子孫の合馬家が居住し、医学博士の合馬^{すな}愨氏を輩出したが、その後空き家となった様子である。周辺住民への聞き取りによると、合馬屋敷の木材は中津市三光の民間温泉施設の建材として一部再利用されたという。また、第二次世界大戦後、進駐軍のジープが国道付近にあった畑から調査地東側の現在遊興施設のある谷部へ落ちたという。近代の事柄は発掘調査とは直接関係しないが付記しておく。

今回の調査は、中津の古墳時代、中世、近世の地域史を考える上で貴重な調査例となった。道路状遺構など今後の類例の増加に期待したい。

以上、土屋敷遺跡1次調査の発掘調査成果とその意義を述べ、総括とする。

参考文献

- 中津市教育委員会『ふるさとの歴史』1979
- 中津市教育委員会『加来東遺跡』2013
- 中津市教育委員会『市場遺跡1～4次調査』2015
- 中津市教育委員会「東浜遺跡」『中津地区遺跡群発掘調査概報19』2007
- 中津市教育委員会『諸田遺跡・諸田南遺跡発掘調査報告書（遺物編）』2016
- 中津市教育委員会『アーカイブズ講座報告書V』2018
- 大分県教育庁埋蔵文化財センター2010『伊藤田田中遺跡』2010
- 三重野誠「山国川の渡しと下毛駅」『宇佐大路』大分県教育委員会1991

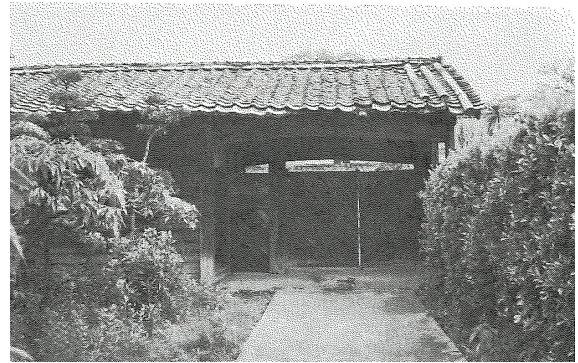


写真1 庄屋屋敷門



写真2 庄屋屋敷お茶屋



写真3 一里松記念碑

遺物観察表 1

遺物 番号	出土遺構	器 種	法量 (cm)			残存率	調 整	焼成	胎 土	色 調	備 考
			器高	口径	底径						
1	基本層序3層	土師器:埴	(2.6)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	1mm大の石英を多量含む 0.5mm大の長石を少量含む 1~1.5mm大の角閃石を微量含む	赤橙(10R 6/6)	
2	1区SD-2	須恵器:甕	(3.6)	(20.6)		口縁部25%	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	堅緻	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	反転復元
3	1区SD-2	土師器:甕	(6.6)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	やや 不良	1mm大の石英を多量含む 1mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の白色粒子を少量含む	橙(7.5YR 6/8)	
4	1区SD-2	陶器:甕	(5.4)			小片	形成:ロクロ? 染付:素焼? 外内面:ナデ	良好		暗赤(7.5YR 3/4)	
5	1区SD-3	土師器:甕 (胴部)	(10.5)			小片	外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ	良好	0.5mm大の石英を多量含む 0.5~1mm大の長石を多量含む 2~3mm大の長石を少量含む 0.5mm大の角閃石を多量含む 1mm大の角閃石を中量含む	外面:にぶい橙 (7.5YR 6/4) 内面:にぶい橙 (7.5YR 7/2)	
6	1区SD-1	須恵器:蓋	(1.7)			小片	外面:回転ヨコナデ 内面:回転ヨコナデ	良好	堅緻	灰白(5Y 7/1)	
7	1区SD-1	須恵器:坏 (底部)	(1.6)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	堅緻	オリーブ灰 (2.5GY 5/1)	
8	1区SD-1	須恵器:甕?	(3.0)			小片	外面:ナデ、タタキ 内面:ナデ、タタキ	良好	堅緻	灰白(2.5Y 7/1)	
9	1区SD-1	須恵器:甕	(6.2)			小片	外面:ヘラミガキ 内面:タタキ(青海波)	良好	堅緻	黄灰(2.5Y 6/1)	
10	1区SD-1	瓦質土器:鍋	(6.6)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.5~1mm大の石英を少量含む 0.5mm大の長石を中量含む 0.5mm大の角閃石を多量含む 1~2mm大の角閃石を中量含む 0.5mm大の黒色粒子を多量含む	外面:にぶい橙 (7.5YR 7/3) 内面:浅黄橙 (7.5YR 8/3)	15・16世紀
11	1区SD-1	瓦質土器:鍋	(4.7)			小片	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	良好	0.5mm大の黒色粒子を少量含む 0.5mm大の茶色粒子を少量含む	外面:褐灰(10YR 5/1) 内面:灰白(10YR 8/1)	
12	1区SD-1	瓦質土器:鍋	(3.4)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.5mm大の石英を微量含む 0.5mm大の長石を中量含む 0.5~1mm大の角閃石を中量含む	外面:明赤褐(5YR 5/8) 内面:明赤褐(5YR 5/6)	
13	1区SD-1	瓦質土器:鍋	(5.0)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	1mm大の石英を少量含む 0.5mm大の長石を多量含む 0.5~1mm大の角閃石を多量含む 0.5mm大の赤色粒子を微量含む	外面:褐灰(10YR 6/1) 内面:褐灰(10YR 4/1)	時期不明。15・16世紀か。内面上部に沈線
14	1区SD-1	瓦質土器:鍋	(7.2)			小片	外面:ナデ?、 ヘラケズリ 内面:ナデ?	良好	0.5~2mm大の角閃石を多量含む 0.5~1mm大の石英を多量含む 0.5~2mm大の白色粒子を多量含む 雲母粒子を微量含む	褐灰(10YR 5/1)	外面にスス附着
15	1区SD-1	瓦質土器:鍋	(5)			小片	外面:ナデ 内面:ミガキ?	良好	0.5mm大の白色粒子を微量含む 0.5mm大の黒色粒子を微量含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	
16	1区SD-1	瓦質土器:鉢	(6.5)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	1mm大の石英を中量含む 1~1.5mm大の角閃石を多量含む 1mm大の白色粒子を少量含む	外面:にぶい褐(7.5YR 5/4) 内面:灰白(7.5YR 8/1)	
17	1区SD-1	瓦質土器:鉢	(1.8)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.5mm大の石英を多量含む 0.5mm大の長石を微量含む 1mm大の角閃石を多量含む 0.5mm大の赤色粒子を微量含む	明黄褐 (10YR 7/6)	
18	1区SD-1	瓦質土器:鉢?	(4.9)			小片	調整不明	良好	0.5~2mm大の長石を少量含む 0.5~1mm大の黒色粒子を多量含む 0.5mm大の角閃石を少量含む	にぶい黄橙 (10YR 7/2)	
19	1区SD-1	瓦質土器:鉢	(5.9)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	1mm大の石英を多量含む 0.5~1mm大の長石を多量含む 1.5~2mm大の角閃石を中量含む 微粒子の角閃石を多量含む 1mm大の赤色粒子を少量含む	外面:にぶい黄橙 (10YR 7/3) 内面:灰黄褐 (10YR 5/2)	
20	1区SD-1	瓦質土器:鉢	(3.7)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.5mm大の石英を多量含む 0.5~1mm大の長石を多量含む 0.5~1mm大の角閃石を多量含む 3mmの黒色粒子を微量含む	外面:橙(5YR 7/6) 内面:明赤褐 (2.5YR 5/6)	
21	1区SD-1	瓦質土器:鉢	(3.9)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.5~2mm大の石英を少量含む 0.5~1mm大の白色粒子を少量含む 0.5mm大の黒色粒子を微量含む	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	
22	1区SD-1	瓦質土器:器種 不明・底部	(2.0)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.5mm大の石英を多量含む 0.5mm大の長石を微量含む 2mm大の角閃石を少量含む 1mm大の角閃石を多量含む 0.5mm大の赤色粒子を微量含む	外面:にぶい黄橙 (10YR 6/3)	内面に沈線?ヘラ痕? あり
23	1区SD-1	瓦質土器:甕	(2.9)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.5mm大の石英を少量含む 0.5mm大の長石を多量含む 0.5~1mm大の角閃石を多量含む 1~2mm大の赤色粒子を少量含む	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	近世
24	1区SD-1	土師器:小皿	(2.2)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:糸切り痕	良好	0.5mm大の石英を多量含む 0.5mm大の長石を少量含む 0.5~1mm大の角閃石を多量含む	にぶい黄橙 (10YR 7/2)	底部に黒斑あり

遺物観察表 2

遺物 番号	出土遺構	器 種	法量 (cm)			残存率	調 整	焼成	胎 土	色 調	備 考
			器高	口径	底径						
25	1区SD-1	陶器・擂鉢	(7.1)			小片	形成:ロク口 染付:素焼 外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.5~5mm大の白色粒子を多量 含む	内面・外面口縁部: 褐灰(10YR 5/1) 外面胴部:褐色 (7.5YR 4/4)	産地:備前 年代:15世紀後半
26	1区SD-1	瓦質土器・擂鉢	(5.1)			小片	外面:ナデ	良好	0.5~2mm大の白色粒子を少量含む 0.5~2mm大の黒色粒子を少量含む	灰褐(5 YR 5/2)	
27	1区SD-1	陶器・擂鉢	(5.2)			小片	外面:ナデ 内面:上部・ナデ	良好			
28	1区SD-1	磁器:碗	(4.8)		(4.2)	小片	形成:ロク口 絵付:染付・ 透明釉			呉須の色調:淡緑色	反転復元 文様/外面:一重網目文 高台底部に砂目痕あり
29	1区SD-1	磁器:碗	(3.5)			小片	形成:ロク口 絵付:外面/染付・透明釉 内面/透明釉			呉須の色調:青	文様/外面:不明
30	1区SD-1	磁器:皿(八角)	(3.9)	(19.6)	(10.8)	40%	形成:型打 絵付:染付・ 透明釉			呉須の色調:濃青色	文様/外面:不明 外底面:銘あり 内面:亀、波、雲?
31	1区SD-1	磁器:鉢	(5.7)			小片	形成:型打 絵付:染付・透明釉			呉須の色調:濃青色	文様/外面:不明 内面:唐草文、花文?
32	1区SD-1	磁器:碗	(2.3)		(5.4)	小片	形成:ロク口 絵付:内外面/染付・透明釉 底部/透明釉			呉須の色調:淡青色	反転復元 文様/外面:圏線 見込:圏線 脚部:二重圏線
33	1区SD-1	磁器(青磁): 瓶(底部)	(2.8)		(6.4)	小片	形成:ロク口 絵付:青磁釉				見込にヘラケズリ あり
34	1区SD-4	瓦質土器: 擂鉢?	(3.8)			小片	外面:ナデ 内面:ハケ目	良好	0.1mm大の金雲母を中量含む 0.5mm大の赤色粒子を少量含む 0.5mm少の白色粒子を少量含む 0.5mm大の長石を微量含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	
35	1区SD-5	須恵器:坏 (底部)	(1.7)			小片	外面:回転ヘラケズリ 内面:回転ヨコナデ	良好	堅緻	灰(7.5Y 6/1)	
36	1区SD-5	須恵器:甕? (胴部)	(3.5)			小片	外面:タタキ 内面:タタキ(青海波)	良好	堅緻	灰(N 5/)	
37	1区SD-5	瓦質土器:火鉢	(6.8)			小片	外・内面:ナデ 底部:ヘラケズリ	良好	0.5mm大の角閃石を多量含む 0.1mm大の石英を中量含む 0.1mm少の白色粒子を少量含む	外面:黒(7.5Y 2/1) 内面:オリーブ黒 (5Y 3/1)	外面底から1.5cmに 突帯あり
38	1区SD-6	須恵器:蓋	(1.0)			小片	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	良好	堅緻	灰(5Y 6/1)	
39	1区SD-6	須恵器:器種不 明(口縁部)	(3.0)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	堅緻	黒褐(2.5Y 3/1)	外面に突帯2本あり
40	1区SD-6	須恵器:甕 (胴部)	(6.8)			小片	外面:タタキのちナデ 内面:タタキ(青海波)	良好	堅緻	灰白(10YR 7/1)	
41	1区SD-6	瓦質土器:擂鉢	(3.5)			小片	外面:ナデ	良好	0.1mm大の白色粒子を多量含む 0.1mm大の角閃石を微量含む 0.1mm大の赤色粒子を少量含む 0.1mm大の石英を少量含む	灰褐(7.5YR 4/2)	
42	1区SD-6	瓦質土器:器種 不明(口縁部)	(3.0)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.1~0.5mm大の角閃石を多量含む 0.1mm大の白色粒子を少量含む 0.1~0.5mm大の石英を中量含む 0.2mm大の黒色粒子を少量含む	黒褐(2.5Y 3/1)	
43	1区SD-6	瓦質土器:器種 不明			(4.1)	小片	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ?	良好	0.1mm大の白色粒子を中量含む 0.1mm大の雲母を中量含む 0.5mm大の長石を微量含む 0.1mm大の赤色粒子を微量含む 0.5mm大の角閃石を微量含む	にぶい黄橙 (10YR 5/4)	
44	1区SD-7	須恵器:壺? (胴部)	(9.6)			小片	外面:一部回転ヘラケズリ 内面:回転ヨコナデ	良好	堅緻	外面:灰白(5Y 7/1) 内面:灰(5Y 5/1)	外面に浅い沈線2本 あり
45	1区SD-7	土師質土器:灯明皿	1.9			小片	外・内面:不明 底部:糸切り?	不良	0.1mm大の雲母を多量含む 0.1mm大の白色粒子を少量含む 0.1mm大の石英を少量含む	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	全体に激しくスス 付着
46	1区SD-7	瓦質土器:火鉢	(4.1)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.1~0.5mm大の白色粒子を多量含む 0.1~0.5mm大の角閃石を多量含む 0.2mm大の石英を中量含む 0.1mm大の雲母を中量含む 0.1mm大の黒色粒子を多量含む	黒褐(2.5Y 2/1)	
47	1区SD-7	磁器:碗	(4.0)			小片	染付:透明釉			浅黄(2.5YR 7/4)	
48	2区 SK-1	須恵器:蓋	(1.8)			小片	外面:回転ヘラケズリ 内面:回転ヨコナデ	良好	堅緻	青灰色	
49	2区 SK-1	瓦質土器:鉢	(5.4)			小片	外面:ヘラケズ リ?(上部2cm・ 不明) 内面:不明	良好	0.5mm大の角閃石を多量含む 0.1mm大の雲母を中量含む 0.2mm大の石英を少量含む 0.1~0.5mm大の白色粒子を少量含む	にぶい黄(2.5Y 6/3)	年代:16世紀
50	2区 SK-1	瓦質土器:擂鉢	(7.9)	(25)		小片・ 口縁部20%	外面:上部・ヨコナデ 脚部・不定方向なヘラケ ズリ 内面:ヨコナデ	良好	0.1~0.5mm大の石英を中量含む 0.1~0.5mm大の白色粒子を多量含む 0.1mm大の黒色粒子を少量含む	褐灰(10YR 5/1)	反転復元
51	3区SD2-9層+ 3区SD1	土師質土器:皿	3.4	15.2		75%	内外面:ナデ	良好	0.5~2mm大の石英少量含む 0.5mm大の角閃石少量含む	黄灰(2.5Y 5/1)	口縁部白目に焼きが 甘い?

遺物観察表 3

遺物 番号	出土遺構	器 種	法量 (cm)			残存率	調 整	焼成	胎 土	色 調	備 考
			器高	口径	底径						
52	3区SD-2-6~7層	須恵器:不明	(8.0)			(小片)口縁	外面:ケズリ、ハケ目のナデ? 内面:ヨコナデ?	良好	堅緻	内外面:灰黄 (2.5Y 7/2)	
53	3区SD-2	土師器:甑の取 手	(5.0)			小片	ナデ	やや 不良	3mm大、3mm大の角閃石を微量含む 1~2mmの角閃石を多量含む 1mm大の石英を中量含む 0.5mm大の雲母を多量含む	灰白(10YR 8/2)	
54	3区SD-2	瓦質土器:鍋	(6.2)			(小片)口縁	外面:粗いミガキ、 右上から左下へ向 かってのケズリ? 内面:粗いミガキ	良好	0.5mm大の雲母を多量含む 0.5mm大の石英を多量含む 1~2mm大の角閃石を少量含む 1mm大の赤色粒子を微量含む 0.5mm大の白色粒子を微量含む	灰褐(7.5YR 4/2)	全体にススが残る
55	3区SD-2-6層	瓦質土器:鍋	(3.3)			(小片)口縁	内外面:ナデ	良好	0.5mm大の白色粒子を少量含む 1mm大の赤色粒子を微量含む 1mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の石英を少量含む	褐灰(10YR 6/1)	
56	3区SD-2-6層	瓦質土器:鍋	(4.5)			(小片)口縁	内外面:ナデ	良好	0.5~2mm大の角閃石を微量含む 0.5mm大の白色粒子を少量含む 0.5mm大の石英を少量含む 0.5mm大の雲母を少量含む	黄灰(2.5Y 5/1)	
57	3区SD-2	瓦質土器:鍋	(6.7)			(小片)口縁	外面:ナデ、ヘ ラケズリ 内面:ナデ	良好	0.5mm大の白色粒子を多量含む 1mm大の赤色粒子を少量含む 0.5~1mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の雲母を微量含む	外面:黒褐 (7.5YR 3/2) 内面:褐灰 (7.5YR 5/3)	反転復元 外面全体的にスス 付着
58	3区SD-2-6層	瓦質土器:鍋	(8.5)			(小片)口縁	外面:ナデ、ケ ズリのちナデ 内面:ナデ	良好	0.5mm大の赤色粒子を微量含む 1mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の石英を少量含む	灰(5Y 5/1)	
59	3区SD-2-9層	瓦質土器:鍋	(7.7)			(小片)口縁	外面:ナデ、ヘ ラケズリ 内面:ナデ	良好	0.5mm大の雲母を多量含む 0.5mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の白色粒子を少量含む	外面:黒褐(7.5YR 3/2) 内面:褐灰(7.5YR 6/1)	外面全体的にスス 付着
60	3区SD-2	瓦質土器:鍋	10.3	最大径23.2 最小径21.8		完形	外面:ナデ、ヘラケ ズリ 内面:ヨコナデ	良好	1mm大の石英を多量含む 1mm大の角閃石を中量含む 2mm大の白色粒子を微量含む	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	口縁は楕円形 内面にスス付着(見込みに炭化物あり) 年代:15世紀前半
61	3区SD-2-6~7層	瓦質土器:鍋	(6.3)			(小片)口縁	内外面:ヨコナデ	良好	0.5mm大の石英を中量含む 0.5mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の黒色粒子を少量含む 0.5mm大の角閃石を少量含む	外面:灰黄褐(10YR 5/2) 内面:にぶい黄橙 (10YR 7/4)	外面全体的にこげ あり 年代:15世紀
62	3区SD-2-6層	瓦質土器:鉢	(4.0)			(小片)口縁	内外面:ナデ	良好	0.5mm大の赤色粒子を微量含む 0.5mm大の白色粒子を微量含む 0.5mm大の石英を少量含む	外面:灰白 (10YR 7/1) 内面:明褐 (7.5YR 7/1)	
63	3区SD-2-6層	瓦質土器:鍋?	(2.9)			(小片)口縁	内外面:ナデ	良好	0.5mm大の白色粒子を中量含む 0.5mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の石英を中量含む 0.5mm大の黒色粒子を中量含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	上向きの注口あり
64	3区SD-2	瓦質土器:鍋	(11.4)	(27.0)		25%	外面:ヨコナデ、ケズリのちナデ 内面:ヨコナデ、ミガキ?、ナデ	良好	0.5mm大の石英を少量含む 1mm大の白色粒子を少量含む 0.5mm大の雲母を中量含む	赤橙(10YR 6/6)	反転復元 内側にスス付着。ヒビに よる歪みあり。丹塗り?
65	3区SD-2-6層	瓦質土器:鉢	(6.2)			(小片)口縁	内外面:ヨコナデ	良好	0.5~1mm大の石英を少量含む 0.5mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の雲母を少量含む 0.5~1mm大の白色粒子を少量含む 0.5mm大の赤色粒子を微量含む	外面:灰白(2.5Y 7/1) 内面:灰黄(2.5Y 7/2)	
66	3区SD-2-6層	瓦質土器:擂鉢	(3.2)			(小片)口縁	外面:ヨコナデ、 ナデ 内面:ヨコナデ	良好	0.5mm大の白色粒子を多量含む 1mm大の赤色粒子を少量含む 0.5~1mm大の石英を少量含む 0.5mm大の雲母を微量含む 0.5mm大の石英を中量含む	外面:灰褐 (7.5YR 6/2) 内面:褐灰 (7.5YR 5/1)	
67	3区SD-2-6層	瓦質土器:火鉢	(3.6)			(小片)胴部	内外面:ナデ	良好	0.5mm大の角閃石を中量含む 雲母微粒子を微量含む	外面:褐灰 (7.5YR 6/1) 内面:灰白(10YR 7/1)	脚部貼り付けの跡 あり
68	3区SD-2-6~4層	瓦質土器:手あ ぶり?火鉢?	(5.2)			(小片)胴部	内外面:ナデ	良好	0.5mm大の黒色粒子を少量含む	外面:浅黄橙 (7.5YR 8/6) 内面:浅黄橙(10YR 8/4)	獅子顔の把手貼り付けあり (右から左への穿穴)獅子 の鼻部分欠損している
69	3区SD-2	瓦質土器:鉢	(9.5)	(49.0)		(小片)口縁	外面:ヨコナデ、 ケズリのちナデ 内面:ヨコナデ、 ナデ	良好	0.5~2mm大の石英を少量含む 0.5~2mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の赤色粒子を中量含む 0.5mm大の白色粒子を微量含む	外面:明赤褐 (5YR 5/6) 内面:明赤褐 (2.5YR 5/6)	外面に黒斑あり
70	3区SD-2-6層+10層	瓦質土器:擂鉢	(8.5)			(小片)口縁	内外面:ヨコナ デ、ナデ	良好	0.5mm大の石英を中量含む 0.5mm大の白色粒子を少量含む	褐灰(10YR 4/1)	内面上部沈線あり
71	3区SD-2	瓦質土器:擂鉢	(9.1)	(24)		小片	外面:ヘラケズ リ 内面:ナデ	良好	0.1mm大の雲母を多量含む 0.5mm大の角閃石を中量含む 0.1mm大の白色粒子を少量含む 0.3mm大の赤色粒子を微量含む	褐灰(10YR 4/1)	反転復元 産地:不明 年代:16世紀代
72	3区SD-2-9層	瓦質土器:擂鉢	11.2	30.0	10.5	75%	外面:ナデ、ケ ズリ	良好	0.5mm大の黒色粒子を少量含む 微粒子の石英を少量含む	灰(7.5YR 5/1)	反転復元 1cm幅に4本の筋
73	3区SD-2	瓦質土器:茶釜	(5.8)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.1~0.5mm大の角閃石を多量含む 0.1mm大の雲母を少量含む 0.1mm大の石英を少量含む 0.1mm大の黒色粒子を少量含む 0.1mm大の白色粒子を少量含む	外面:灰白(2.5Y 8/2) 内面:浅黄(2.5Y 7/3)	取っ手部分に穿孔 有り

遺物観察表 4

遺物番号	出土遺構	器種	法量 (cm)			残存率	調整	焼成	胎土	色調	備考
			器高	口径	底径						
74	3区SD-2	瓦質土器:茶釜	(13.7)	(14.3)	最大胴 (18.6)	30%	外面:ヨコナデ、ケズリのちナデ 内面:ヨコナデ、ハケ目のちナデ	良好	0.5~2mm大の石英を多量含む 0.5~2mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の白色粒子を多量含む 1~2mm大の赤色粒子を微量含む	黄灰(2.5YR 5/1)	反転復元 張り付けた把手あり (右から左へ穿穴)
75	3区SD-2-9層+8層+10層	瓦質土器:壺	(13.1)			(小片)体部 ~底部	外面:ナデ、ケズリのちナデ 内面:ナデ	良好	0.5mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の石英を少量含む 0.5mm大の黒色粒子を少量含む	浅黄(10YR 7/3)	
76	3区SD-2-10層	瓦質土器:甕	(7.1)			(小片)胴部 上位	外面:ヨコナデ、ハケ目のちナデ 内面:ヨコナデ	良好	0.5~3mm大の白色粒子を中量含む 0.5mm大の石英を少量含む 0.5mm大の黒色粒子を少量含む	橙色(2.5YR 6/6)	外面下部表面部分 剥落
77	3区SD-2-6層	瓦質土器:土錘	(5.3)	0.8			外面:ナデ?	良好	0.5mm大の石英を少量含む 0.5mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の白色粒子を少量含む 0.5mm大の黒色粒子を少量含む	にぶい橙(7.5YR 6/4)	指跡あり
78	3区SD-2-6層	瓦質土器:皿	2.6	(12.0)	(5.6)	20%	外面:ヨコナデ、ケズリ? 内面:ヨコナデ	良好	0.5mm大の白色粒子を中量含む 0.5mm大の黒色粒子を少量含む 0.5mm大の石英を少量含む	外面:黄橙(2.5YR 6/6) 内面:にぶい黄橙 (10YR 7/4)	反転復元
79	3区SD-2-7層	瓦質土器:不明	(6.0)			(小片)口縁	内外面:ヨコナデ	良好	0.5mm大の黒色粒子を中量含む 0.5mm大の白色粒子を少量含む 微粒子の角閃石を微量含む	褐灰(10YR 5/1)	
80	3区SD-2-7層	瓦質土器:不明	(2.4)			(小片)脚部	ナデ	良好	0.5~1mm大の角閃石を中量含む 0.5~1mm大の石英を多量含む 0.5mm大の赤色粒子を中量含む 0.5mm大の白色粒子を少量含む	外面:淡赤橙 (2.5YR 7/4) 内面:にぶい橙 (5YR 6/4)	
81	3区SD-2南カベP2	石製品:砥石	長さ 6.7	幅 (8.6)	厚さ (3.2)						石材?: (細粒)砂岩?
82	3区SD-2	石製品:砥石	長さ (6.4)	幅 3.6	厚さ 2.4	小片					石材:凝灰岩?
83	3区SX-1	瓦質土器:播鉢	(12.1)	(37.5)	(39.0)	20%	外面:ヨコナ デ、ヘラケズリ	良好	0.5~2mm大の石英を中量含む 0.5~2mm大の角閃石を少量含む 0.5mm大の白色粒子を少量含む	黒(5YR 1.7/1)	反転復元 1.5cm幅6本の溝で1単位? 全体的に器壁が剥落している
84	3区SX-1	瓦質土器:鍋	(6.6)			(小片)口縁	外面:ヨコナデ、ヘラケ ズリ 内面:ヨコナデ、ミガキ	良好	0.5~3mm大の赤色粒子を多量含む 0.5mm大の雲母を少量含む 0.5mm大の石英を微量含む*	灰(7.5Y 4/1)	
85	3区SX-1	陶器:甕	(9.0)			(小片)口縁	外面:回転ヨコナ デ 内面:回転ヨコナ デ、タタキ目	良好		灰赤色(2.5Y R6/2)	釉あり
86	3区SB-1	瓦:平瓦	長さ (7.0)	幅 (6.5)	厚さ 2.0	(小片)					
87	4区T-1 サブトレイ括	須恵器:甕?	(5)			小片	外面:タタキ 内面:タタキ(青海波)	良好	堅緻	外面:灰黄褐(10YR 6/2) 内面:褐灰(10YR 5/1)	
88	4区T-1 サブトレイ括	瓦質土器:鉢	(1.7)			小片	外面:ナデ 内面:ナデ	良好	0.5mm大の黒色粒子を少量含む 0.5mm大の茶色粒子を中量含む 0.5mm大の石英を少量含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	
89	4区T-1	瓦質土器:甕 (?)	(12.3)			小片	外面:ミガキ 内面:ナデ	良好	雲母微粒子を少量含む 角閃石微粒子を少量含む	外面:明黄褐(10YR 6/6) 内面:にぶい黄褐(10YR 5/4)	
90	4区T-1 瓦列	瓦質土器:?	(16.1)	長さ (2.8)	幅 (6.0)			良好	1mm大の黒色粒子を少量含む 1mm大の白色粒子を中量含む	褐灰(10YR 5/1)	
91	4区T-1	磁器:蓋	3.1	10.2		90%	形成:ロク口 絵付:染付・透 明釉			呉須の色調:濃青色	文様 外面:松・梅・圏線 見込: 内面:圏線
92	4区T-1	磁器:蓋	2.9	10.4		50%	形成:ロク口 絵付:染付・透 明釉			呉須の色調:濃青色	文様 外面:松・梅・圏線 見込: 内面:圏線
93	4区T-1 サブトレイ括	磁器:植木鉢	(5.0)		(21.6)	小片	形成:ロク口 絵付:外面/染付・透明釉 内面、底部/露胎			呉須の色調:濃青色	底部に直径2.4cmの穴 あり
94	4区T-1 サブトレイ括	磁器:鉢(?)	(1.9)			小片	形成:ロク口 絵付:染付・透明釉				文様/外面:鋸歯文 内面:不明
95	4区T-1 サブトレイ括	陶器:碗	(3.8)			小片	染付:陶胎染 付・透明釉			呉須の色調:深緑	
96	4区T-1 瓦列	瓦:平瓦	(6.0)								
97	4区T-1 瓦列	瓦:軒棧瓦	瓦当幅 4.5	文様帯幅 2.7	頸部幅 1.5						篇文
98	4区T-1 瓦列	瓦:棧瓦	(3.8)	長さ (15.6)	幅 (13.5)						「x」状の沈線あり
99	4区T-1	石製品:五輪塔 (火輪)	16.8	幅 28		ほぼ完形					安山岩
100	一括	須恵器:坏	(4.1)			小片	回転ヨコナ デ	良好	堅緻	外面:暗灰(N 3/3) 内面:灰(N 5/5)	外面に十字のヘラ痕 あり
101	一括	須恵器:壺?	(2.3)			(小片)口縁	外面:回転ヨコ ナ デ、沈線、刺突文 内面:回転ヨコ ナ デ	良好	堅緻	内外面:灰白 (10YR7/1)	沈線、刺突文あり
102	一括	瓦質土器:鍋	(3.8)			(小片)口縁	内外面:ヨコナ デ	良好	0.5mm大の黒色粒子を微量含む	外面:浅黄(2.5YR 7/3) 内面:にぶい橙(7.5YR 7/3)	

写 真 图 版



調査区遠景（上が北）



1区調査区全景（上が北）

写真図版 2



1区SD1検出状況（北から）



1区SD5・6検出状況（北から）



1区SD1中央部完掘状況（北から）



1区SD1南端完掘状況（北から）



1区SD1石列状況（西から）



1区SD1石列状況（南から）



1区SD1土層③



1区SD1土層④



1区SD2・3完掘状況（東から）



1区SD5完掘状況（西から）



1区SD1とSD5切り合い状況（西から）



1区SD5土層（北から）

写真図版 4



2区SK1完掘状況（西から）



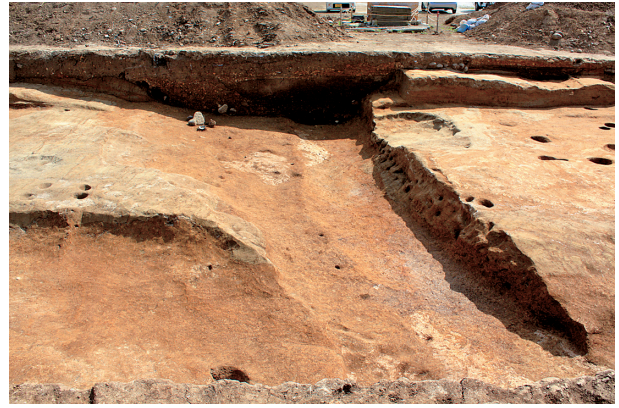
3区遺構検出状況（南から）



3区調査区全景（西から）



3区SD2掘り返し部完掘状況（南から）



3区SD2完掘状況（北から）



3区SD2遺物出土状況（北から）



3区SB1完掘状況（南から）



4区ST1近景（北から）



4区ST1内瓦列（南から）

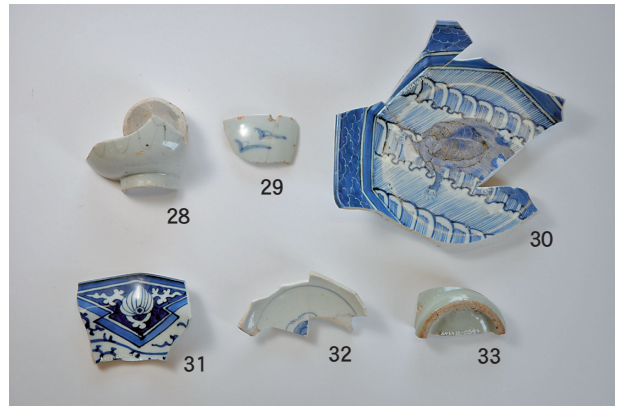
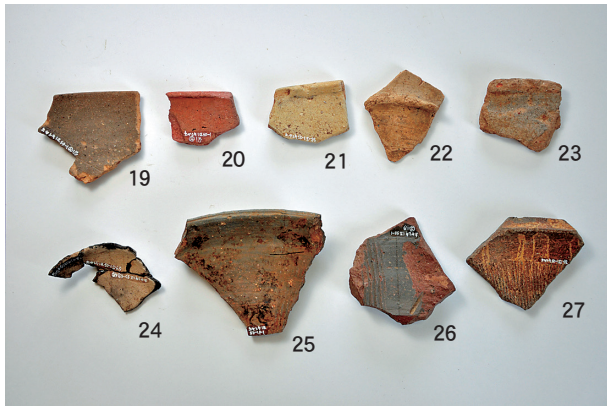
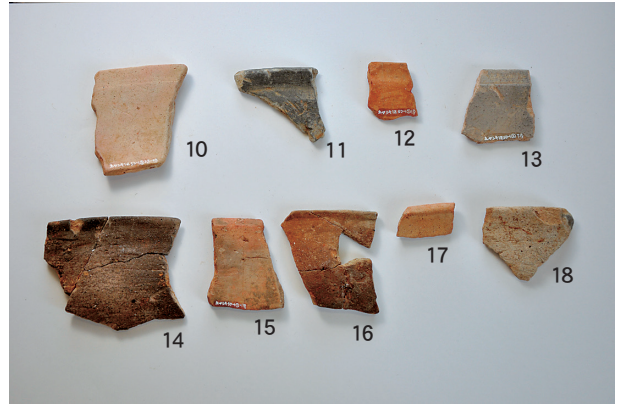
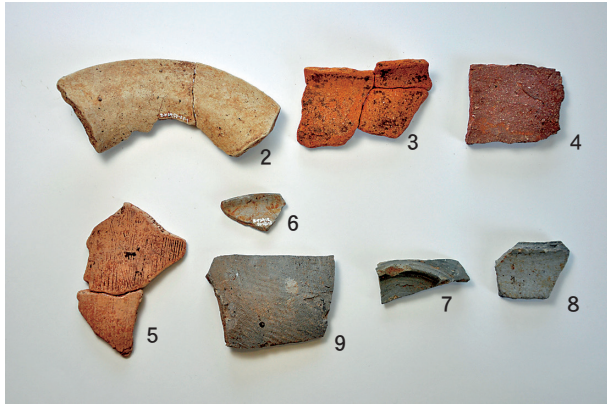


作業風景

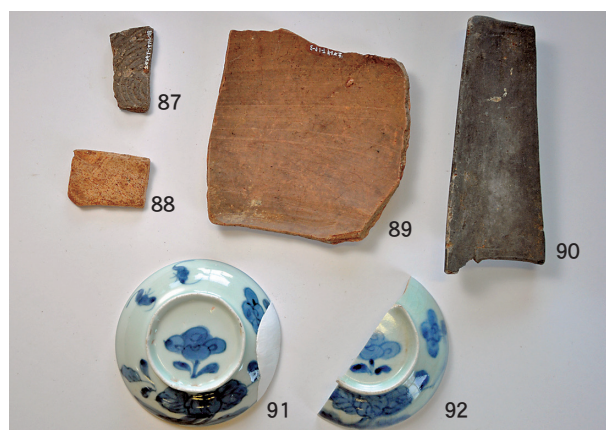
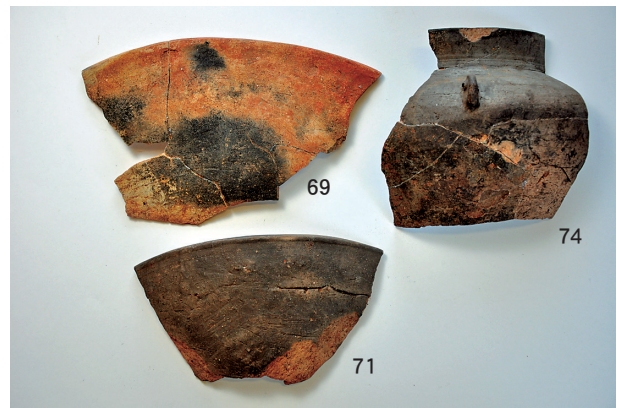
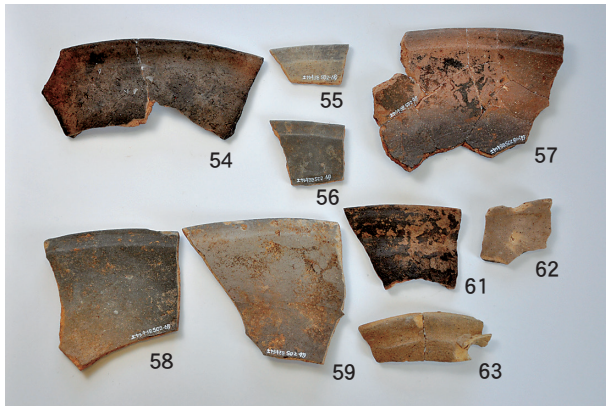


現地説明会風景

写真図版 6



出土遺物



出土遺物

報告書抄録

書名	つち やしき いせき じちようさ 土屋敷遺跡1次調査							
副書名	如水コミュニティーセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第99集							
編著者名	浦井 直幸							
編集機関	中津市教育委員会							
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 TEL 0979-22-1111							
発行年月日	2020年3月31日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積	調査原因
つち やしき いせき 土屋敷遺跡	おおいたけん なか つ し おお あび 大分県中津市大字 おうま ばん ほか 合馬479番1外	44203	203292	33° 35' 18"	131° 13' 24"	20131002 ～ 20131212 20140410 ～ 20140522	735m ² 336m ²	コミュニティー センター 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
土屋敷遺跡	集落・中世城館	古墳・中世・ 近世	溝状遺構	瓦質土器	中世の堀跡を検出			
要約	<p>1区では15・16世紀代と思われる大規模溝状遺構（堀跡）を確認した。近世にその堀を拡幅し水田として利用した様子。</p> <p>2区では地下式土壙を検出した。</p> <p>3区では1区SD1に接続する溝状遺構を検出した。</p> <p>4区では築山とみられる塚状遺構を検出した。</p>							

土屋敷遺跡1次調査

如水コミュニティーセンター建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告 第99集

2020年3月31日

発行 中津市教育委員会

印刷 榊川原田印刷社